

Title	校本「能因歌枕」
Sub Title	
Author	川村, 晃生(Kawamura, Teruo) 能因歌枕研究会(Noin utamakura kenkyukai)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	1986
Jtitle	三田國文 No.5 (1986. 6) ,p.33- 80
JaLC DOI	10.14991/002.19860600-0033
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-19860600-0033">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-19860600-0033</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 校本「能因歌枕」

## 凡 例

一、底本は、京都女子大学図書館蔵『能因歌枕』を用いた。

一、底本の翻刻は、左の点を除いて底本のままとした。

(1) 漢字の旧字、異体字等は、通行の字体に改めた。

(2) 底本どおりの改行は行なわず、適宜、長文の文節や文の切れ目は一字、項目の変り目は二字あけて翻刻した。

(3) 本文の書式上の乱れは、適宜整理した。

(4) 底本における二行分かち書きは、活字ポイントを下げた一行とし、また用字の大小の差は、おおむね底本のままとした。

一、諸本との異同は、次の方針に従って示した。

(1) 漢字と仮名の異同は、意味の相違が生じるなど、必要の認められる場合以外は、略に従った。

(2) 地名の固有名詞における漢字の異同は、森―杜の如く一般性を有する語については略したが、他は掲出した。

(3) 同音の仮名表記の異同（を―お、ほ―お）などは、略に従った。

た。

(4) 振り仮名の有無については、振り仮名や本文上に異同があつてそれを頭注に示した場合以外は省いた。但し、振り仮名自体の異同はすべて掲出した。

(5) 濁点の表記の異同は示した。

(6) 傍記については、本行自体が見消その他によって小字または傍記の形をとっている場合は異同とせず、底本と異なる傍記が存する場合のみ、それを掲出した。

(7) 補入記号は略に従った。

(8) 見消記号も略に従ったが、解釈上問題となるような場合にについては掲出した。

(9) 異同の表示については、底本の漢数字を付した箇所から本文の切れ目（活字アキ）或は次番の漢数字の箇所までを一まとまりとし、その部分に対応する異文毎に頭注に掲出した。但し、掲出文が長きに渡る場合には、底本との異同を含む部分のみ示し、（以下同）―それ以下底本と本文の意―と記して略したこともある。その他、適宜記号を用い省略した。

川村 晃 生 編  
能因歌枕研究会

(40) 本文の有無や記載順の相違についても、でき得る限り頭注に示したが、大きな異同はその旨を「記載位置に異同あり」と頭注に記して解題に後掲したものもある。

(41) その他、特殊な表示方法につき例示しておく。

。43頁・一二の如く、「にはてるや〜」の項目、とある場合は、「にはてるやとは 水海（水）を云」の如き一文全体を示す。

。45頁・一二の如きは、「たまゆらといふ」の次に、74頁10行「京をは〜」以下の本文が続くことを示す。

(42) 頭注及び解題における異文の表記は、同一異文が複数諸本に

おいて見られる場合、掲出諸本の最初のものに従った。

一、本文、頭注に用いた□は判読不能箇所、( ) は推定箇所、〔 〕は校訂者の他本などによる私注を示す。

一、校合に用いた諸本とその略称は、左のとおりである。

彰考館蔵本(彰)、北野神社蔵本(北)、三手文庫蔵本(三)、元禄九年版本(版)、東京大学文学部国文学研究室蔵本(東)、河野信一記念文化館蔵本(河)、宮内庁書陵部蔵本(書)

### 能因歌枕

天地（天）

あめつちといふ

道（道）

たまほこといふ

わたくしたまつたといふ

異本（異）

たつきとい

三たまたともいふ (三版東河)

四夜 (三版)、フリガナナシ (北東河)

五むたまといふ (三版東河)

六あしひきの山へいらしと云けるを (三版東河)

七いろのなめてる (北)

八ひるはあかさすとも (三版東河)

九朔月（本） (彰)、朔日（北）

一〇かけてらすとも (三版東河)

一一あからひくといふ さやかなりといふ

一二ナシ (東)、あからひくととも (河)

一三ツモコリ (フリガナ) (書)、フリガナナシ (北三東)

ふ わたくしたまたといふ

夜（夜）

ねはたまといふ

又またまといふ

むはたまといふ

またく

らし 山

あしひきといふ

しなてるやともいふ

そまの（を）

あしひきは

やまへいらし

といひけるを（オ）はしめていひそむ

日 あかねさすといふ

あかほさすといふ

あらかひく

といふ 山のはにさすとき 私（私）いのなみてる ひるはあか（さ）。すともいふ

朔月（朔）

ゆみはりとい

ふ 月 ひさかたといふかけてらすともいふ

あからひくといふ

さやかなりといふ

晦（晦）

一みまごをは(三版東河)  
 二てつなとにかけて読へし(三東)、てつな  
 とににかけて読へし(版)、てつなとにか  
 けて読へし(河)

三には鳥ゆふをつけて神に奉るを云(河)  
 四たかがりをいふ(版東河)  
 五さくらびをもいふ(版河)、さわらひをも  
 (東)

七やへむぐらとは(版東)、「やへむぐらとは  
 〓」の項目、「若菜とは」の項目の前に  
 あり(河)

八あらはたけに有(河)  
 九はたにうきたる事たとふ(三版東)、あた  
 にうきたる事にとふ(河)

二〇にわたつみとは版)、にはたつみとは(東)  
 二水のおめをいふ(東)  
 本が歟

三又はよたやるともいふ(彰)、又かたやる  
 ともいふ(北河)、又はかたやる共云ふ(三  
 版書)、又いかたやる共云ふ(東)  
 三はかなき世にたとふ(版)、はかなき世を  
 云ふ(河)

四「空蟬とは」75頁2行「かはらよもきと  
 いふ」一ナシ(書)  
 五せみのぬけたるかはりからとも(彰北)  
 六女によりて身をいたつらになすものにと  
 ふ(版)  
 七忘草とは(版)、フリガナナシ(北三東河)  
 八菅草をいふ(版河)、菅草をいふ(東)、フ  
 リガナナシ(三)  
 九荒物におふ(河)

ありあけといふ 風 はるかせ あき風 ときにしたかふ」ウ いなおほせ鳥とは あき

よむへし おしをは 山からにすむ わかれにしとも 一みまごをは あらいそつらに。かけ

てよむへし 鷹をは はしたか したかへるとはてにかへるをいふ 鷹ほことは たかの

ある木をいふ みやくとりとは そへてよむへし ゆふつけ鳥とは 神にゝはとりたて

まつるをいふ 私には鳥にゆふをつけて神にたてまつる」オをいふ かりかねとは たかゝ

りをいふ あましとゝいふ 若菜とは 多く すみれ なつなゝとをいふ さわらひをもい

ふ あらはたけにあり やへむぐらとは あれたる所にはひかゝれるをいふ うき草とは

あたにうきたることをたとふ にわたつみとは 雨のふるにたまのやうにてあるみつのあはを

いふ 又はゝかたやるともいふ はかなきよにたとふ」ウ 空蟬とは むなしきものにとふ

せみのぬけたるかへりからとも 夏虫とは 女によりてみをいたつらになす物にとふ

螢とは おもひかくれぬ物にたとふ かはつとは かへるをいふ 井てのわたりにあり

なはしる水にもあり 忘草とは 菅草をいふ すみよしのきしにおふ さしも草とは あ

一しのおぶくさは(版)

二かべなどにおふる也(版河)

三かべにおふるを(版東)

四いつまで草と云(河)

五はしめのわらひを云(河)

六ほにいつるといふなり(三版東)

七たはなすゝきといふへきぞ(三東)

八なすゝきといふへきぞ(版、たらは

なすゝきと云(河)

八同一本文(彰)、かつみといふ(北三版東

河)

九・九(しもこと云(河)

一〇しらみゆき共いふ(三、しらとゆき共(河)

一一同一本文(彰北)、さくさめといふ(三

版東河)

一二又しられすといふ(北)

一三又まのまさごにたとへていのちをいふなる

へし(版)

一四ひさしくおほかるものごよせていふへし

(彰)、ひさしくおほかるものごよせてい

ふへし(北)

一五かげろふ(版東河)

一六黒虫(彰)、フリガナシ(北)

一七ひぐらしとは(版河)

一八水鶏とは(三版河)、水鶏とは(東

元鳴へし(河)

一九千鳥とは(版)、フリガナシ(北三東)

二〇浜千鳥(版)、フリガナシ(三東)

二一行多もしれぬはまちと(河)

二二かひてはなちたる鳥を(彰北三版河)

二三浜ちとりといふ(彰)、はなちとりといふ

(三版東河)

れ野におふ 山のきしにおふ<sup>3</sup>オ かくもくさは あめのふるをいふ しのふ草とはい

ゑともいふ ことなし草とは かへなどにおふるなり かへにおふるをは いつまで草と

いふなり さわらひとは はしめのわらひをいふ也 おきをば ほにいづるといふ 花

すゝきをば たはなすゝきといふへきか こもをば はなかつみといふ<sup>3</sup>ウ めをば い

もといふ わきもこといふ しらとゆきともいふ おことをば さこといふ さやくなもとい

ふ いはまひくといふ つまといふ 私たまくらといふ しょうとをば さらさめといふ わ

かきめをば わかくさといふ 恋をば たきものこにそへていふ やまとなてしこといふ

又人しれすといふ 祝をば はまのまさごにたとへていのちをいふなるへし 私ひさしくおほ

かるものによせていふへし<sup>4</sup>オ つは物をば ものふといふ かげろふ 糸にたる黒

虫<sup>ムシ</sup> ほのかなる物にたとふ ひくらしとは 蟬<sup>セミ</sup>のちるさきをいふ 鳴<sup>ナリ</sup>とは くらき鳥のを

とは物をたよくやうになくなるへし 千鳥<sup>チトリ</sup>とは 浜千鳥<sup>ハマチトリ</sup> 河千鳥<sup>カチトリ</sup> ゆく多もしらぬはまちと

り<sup>三</sup> あひてはなちたる鳥をば<sup>三</sup> 浜ちとりといふ<sup>三</sup> よふこ鳥とは いはせのもりにかけて

り<sup>三</sup> あひてはなちたる鳥をば<sup>三</sup> 浜ちとりといふ<sup>三</sup> よふこ鳥とは いはせのもりにかけて

一もとあらきのこ萩とは(彰北)、もとあら  
 こ萩とは(河)  
 二み山よりほかによます(彰北三版河)、  
 み山よりは外にはよます(東)  
 三しなとり(東)  
 四みなとりといふことは(彰北三版東河)  
 五「関をよまはし」ふわの関なとよむへし」  
 一前頁「あひてはなちたる鳥をほし」の項  
 目の前にあり(河)  
 六ふわのせきなどをよむへし(三版東河)  
 七おほる川などをよむへし(三版東河)  
 八橋をよまは(版)、「橋をよまはし」の項目、  
 「関をよまはし」の項目の前にあり(河)  
 私な歌  
 九にははのはし(三版東、なにははのはし(河)  
 (三)森をよまは(河)  
 二神なみの森(河)  
 三しのだのもりなどよむへし(版)  
 三三さが野(版)  
 四みやぎ野(版)  
 五春日野などよむへし(版)  
 一六しのぶの里(版)  
 一七ここの花をは(彰三版東河)  
 八はながつみといふ(三版)  
 九山姫とは(版)  
 二(異本ニ(三河)、合点ナン(三版東  
 三(異本ニ(東河)  
 三(異本ニ(東河)  
 三(異本ニ(東河)  
 三(異本ニ(東河)  
 三(異本ニ(東河)

よむへし」ウ 一もとあらきのこ萩とは 二み山よりほかによます 三しなとり 四みなとりといふ  
 ことは 五「関をよまはし」ふわの関なとよむへし 六ふわのせきなどをよむへし 七おほる川などをよむへし  
 八橋をよまは(版) 九にははのはし(三版東、なにははのはし(河) 私な歌  
 一六しのぶの里(版) 一七ここの花をは(彰三版東河) 一八はながつみといふ(三版) 一九山姫とは(版)  
 二(異本ニ(三河)、合点ナン(三版東) 三(異本ニ(東河) 三(異本ニ(東河) 三(異本ニ(東河) 三(異本ニ(東河)  
 さかの関 衣のせきま 白河の関。ふわの関なとよむへし 河をよまは 吉野河。おほるかは  
 山をよまは 吉野山 あさくら山 みかさやま 5 たつたやまなとよむへし 6 もりをよま  
 んには 神なひのもり いくたのもり しのたのもりなとよむへし 瀧をよまは いはなみ  
 のたき お。なしのたきなとよむへし 野を讀は さか野 かたの みやぎ野 春日野なと  
 よむへし 里をよまは しのふの里 伏見の里 いくたのさととよむへし くれぬまと  
 は けふといふなり」ウ 5 この花をは はなかつみといふ 山ひめとは 神をいふ 異  
 本には 春をそむる神 夏をそむる神 秋をそむる神をいふ さをひめとは 春をそむる神な  
 り 異本 なつをそむる神なりとも たつたひめとは 秋の神をいふ あきをそむる神とも あ  
 き。をそむる神なり 5 うらしまのことは すみの江につりしけるあまなり それか 女のとな

一いたつらなりけるを(三)いたつらにな  
りけるを(版東)

二しづのをだまきとは(版)

三むかしの事をかけてよむへし(三版東河)

四にし木とは(河)

五あつまのあびすのよばふ女のもとに(版東)

六しがらみとは(版)

七しを(イ)しきて(三)し(ハ)を(イ)しきて(版)

八うすごほりを(イ)しきて(版)

九ありそみかといふことは(彰三版、あり

そみのかといふことは(北)、ありそみのと  
いふことは(東)、ありそみかといふこと  
は(河)

一〇にくさみは(北)

一一みをつくしとは(版)

一二水ふかき所に立たる木を(河)

一三まがねふくとは(三版)

一四・一五たつあまは(やき馬也)(三)、たつの  
まは(やき馬也)(版東)、たつのまは(やき  
事也)(河)、(以上四本、底本の項目ナシ)

一六たまづさとは(版)

一七ふみをいふなり(三版東河)

一八・一九かほとり(春日山によめり)(三版東  
河)、(以上四本、底本の項目ナシ)

二〇(虫巻)

二一(彰)

二二うしろの庭を云(家の外をも)(三版東河)

三神のやしろのしめ也(河)

せたりけるはこをあけていたつらになりけるを あけてくやしといふ」<sup>6オ</sup> よるの衣。<sup>ヨロイ</sup>とは 人を

こあるときに衣をかへしてぬれはゆめにみゆるなるへし しづのおたまきとは いやしきこと

をいふなり むかしのことなどをかけてよむへし にしきとは たきをこりてあつまのえ

ひすのよはふ女のもとに けさう文に付てやるをいふ 井せきとは なはしろ水にせきいる

をいふ しがらみとは しはを(イ)しきて それによこさまにからみて水をせくをいふ つら

とは うすごほりを(イ)しきて(版) たまきかといふことは わくらはといふことなり ありそみ

の。といふことは 常のならひにていふ たくなはとは あみのつなをいふ にくさ。とは

ふねにあみつけたるをいふ 水を(三)つくしとは 水のふかきところにてたたるきをいふ かし

はを(ハ)やひらてといふ このてかしはといふ まかねふくとは ころかねをふくをいふ

あらたまとは としをいふ」<sup>7オ</sup> たまづさとは ふみをいふ 水くきとは ちてを云<sup>イ</sup> し

きたへとは まくらを云<sup>イ</sup> さまかには くもを云<sup>イ</sup> そともとは うしろの庭也<sup>イ</sup> ゆふと

は<sup>三</sup>神のうしろのしめなり ひほつきとは 神まつるを云<sup>イ</sup> かむ人は はふりといふ ね

一あざちとは(版河)  
二あれたるところ也(東)  
三かさゝぎのはしとは(版)  
四尻のしがらむ秋はきとは(版)

五うらにいらたるところなり(東)  
六なかれぬ水のふかくたまれるを(彰北)、  
なかれぬ水の深くたまりたるを云(河)  
七川のうみになかれないをいへり(三版)  
八河づらをいふ(版東河)

九水のかみを云(彰)  
一〇海づらをいふ(版東)

一一なぎさとは(版)  
一二浅き水に草など生たるを云(河)

一三よすがらとは(版)  
一四夜一よをいふ(三版東河)  
一五みちすがらとは(版)  
一六さらはたとは(彰)  
一七しつはた也(彰)  
一七しつはた也(彰)、しつはた也(東河)

一八むはたまとは(三版東河)

一九たれかれ時とは(彰北)

二〇むせぶとは(版東)

きといふ おとめとは 舞する女をいふ 一あざちとは 二あれたるところを云 三かさゝぎのはし

とは たなはたのあまのかはにむすひわたすを云 しかのしからむ秋はきとは つまこふる鹿の

つのでしからむなり」ウ 江とは うらにさしいらたるところ也 ぬまとは なかれぬ水のふかく

たまれるをいふ みなとゝは かはのうみになかれないをいふ みきはとは 河づらをいふ

みなかみとは 水のかみを云 みなそことは 水のそこをいふ いそとは 海づらを

いふ 二なぎさとは 池海などのほりをいふ さはとは 三あさき水に草などのおひたるをいふ 私

いけかはのはたのあさきをいふ 四よもすからとは よひと夜をいふ 五みちすからとは ひ

とみちと云 さゝはたとは 六しつはた也 ひめもすとは ひとひとといふことなり 七あら

たまとは みたといふ としのかはるを云 八むまたまとは くるき物をいふ 九かは霧とは 十かは

のうへにたつきりを云 たれかれ時とは 十一あれはたれといふ時なり 十二あそひをは うからめとい

ふ 十三かさゝぎとは 鳥をいふ のきの玉水とは 四あめのした水といふ 五あましたりといふ

六むせぶとは 七むすふといふ ともしとは 八火ともして狩するをいふ 九ウ まちとは



一木にのほりてまらするをいふ(北)  
 二舞姫とは(三版)フリガナナシ(北)「舞姫とは」の項目ナシ(東)  
 三五節に舞するをんなをいふ(彰)フリガナナシ(北)、五節にまいる女をいふ(三)、五節にまいる女を云(版)、五節の舞する女を云(河)  
 四あなた「なたといふ事也(東)水をせきあげている」を云(版東) 六井ぐひとは(三版東河) 七そめがみとは(版) 八山ぶしとは(版) 九あまのがはとは(三版) 一〇そらにしろくてわたりたる也(三版東) 空に白くわたりたる也(河) 一一「しのへたけとも」(三)が二本すきとも」の次に混入(彰) み坂  
 一二からかきとは(彰) 一三ナシ(彰)「しのへたけとも」神のやしうのかきなり」の順が逆(三版東河) 一四みつがきとは(版東) 一五雨ふりたるに木の葉よりたる水也(三版東河) 一六まさごとは(版) 一七さかり苔とは(版)フリガナナシ(北) 一八きしなとにさかりたるこけを云(三版東河) 一九いはころとは(彰)北三版東はわ(ころ)とは(河) 二〇夏にはかたく火をいふ(三版東河) 二一さかり火とは(版) 二二さかりにもすを云(三版東) 二三うふねなどによるとほすをいふらん(三版東)うふねなどによるとほすをいふらん(三版東)うふねなどによるとほすをいふらん(河) 二四海の藻などにつく出をいふ(三) 二五いなまるとは(版) 二六いなまなしと云(彰)三版東 二七物あるをいふ(北)物のあるをいふ(三版東河) 二八藤衣とは(三版)フリガナナシ(北東)

一木にのほりてさちするをいふ なこしのはらへとは みな月はらへをいふ ぬさとは 神にたてまつるきぬなり ゆふとは みてくらに紙をさきてつけたるを云 舞姫とは 五節に舞するをんなをいふ おちこちとは あなたこなたといふ事也 早苗とは たく苗をいふ 井せきとは 水をせきあけているをいふ 井くひとは めせくとてうつくひをいふ そめかみとは きやうをいふ かうなとは ほうしをいふ 山ふしとは 山にをこなひするそうなり あまのかはとは そらの白くてわたりたる也 しのすゝきとは かるかやともいふ 一本すゝきとも」オ からかきとは 神のやしうのかきなり たまかきとは しのへたけとも 神のやしうのかきなり 水かきをはひ さしき物をいふ しづくとは あめふりたるにこのはなどよりたる水也 まさごとは すなこをいふ さかり苔とは きしなとにさかりたるこけをいふなり かはころとは 浪などのいはにあなうちあけたるを云 いはかど。は いしのはをいふ かやり火とは 夏にはかたく火をいふ 篝火とは かりにとすひを云 うふねなどによるとほすをいふらん 我からは 海にもなにつくむしをいふ いなつまとは いなひかりをいふ 山なしとは なまなしを云 物あるを云 藤

一ふくさきぬをいふ(彰北三版東河)  
 二旅をも云(版)  
 三山河(彰)(影)  
 四山になるゝ河を云(彰)  
 五六の間に、(ヤナ国とは 日本のことな  
 り)とあり(三版東河)  
 六龍壺とは(三)、フリガナナシ(北東)、滝  
 壺(虫喰)  
 七くほみたる処をいふ(三版東河)  
 八山がつといふ(版河)  
 九したわらびとは(版河)  
 一〇ときならぬわらび也(版)  
 一一ふちばかまとは(版)  
 一二唐におひたる草也(三版東、フリガナ  
 ナ)(北河)  
 一三おんしくとは(三版東、しおんじくと  
 は)(河)  
 一四さくら浪をいふ(三版東河)  
 一五やしまをは(彰北三版東河)  
 一六水かきといふ(彰北三版東河)  
 一七たみのなる人をは(河)  
 一八しもつかえをは(版  
 東)  
 一九いとをしと云なる也(彰)、とをしと云な  
 るへし(北三版東、とをしと云(河)  
 二〇さみだれとは(版)  
 二一五月の雨をいふ也(三版東河)  
 二二なでしこの花をいふなり(三東、なでしこ  
 の花をいふ也)(版東)  
 二三しやうぶなり(版東)  
 二四ますかゞみとは(版)  
 二五たゞかゞみをいふ(版)  
 二六なきもると云(河)  
 二七なかれをいふ(彰版河、なかれをいふ(東)  
 八俗をは(版)、フリガナナシ(北三東河)  
 二八たまをしけ(三)、たまをしけ(東、たま  
 くしけ(河)

衣とは 一 ぶくさきぬをいふ ちのきぬをいふ 9ウ 山田とは やまにつくる田をいふ 草枕とは

草してゆひたるまくらを云 二 たひをいふ 山河とは 山になかるゝ河を云 三 瀧壺とは たきをつ

るところのくほみたるをいふ 人しれぬ思 やまかつといふ したわらひとは ときならぬわ

らひなり 苔衣とは 僧のころもを云 二 ふちはかまとは らんをいふ から草とは 唐にお

ひたるくさなり 一 しめしくとは はのなをいふ しめしくのはなり かたとは ちなり

しきしまとは やまとをいふ ちりなみとは され浪をいふ なみたつのは うつろ

ぶ物をいふ 10オ 道にまとふとは こよといふ也 やしまをは 水かきをいふ 女神を

は ちやはひめといふ 二 たみのなか人をは なりさといふ 一六 しもつかえをは 一七 いとをしと云な

るへし 三 さみたれとは 五月のあめ也 とこ夏とは 二 なたしこの花をいふ あやめとは

一八 しやうふなり 二四 ます鏡とは 二五 たゞかゞみをいふ 二六 こほりをいふ 二七 海をは 二八 なきさもるといふ

河をは 二九 なかれといふ 三〇 そうをは 三〇 けかへるといふ 三二 俗をは 三三 たてしな 三三 よるをは

くらし 又すみそめといふ 10ウ 一四 暁をは 一五 たまをしけ 一六 あけほの 一七 のゝめといふ 一八 宮こをは

一「さねたつまつまといふ」(彰北)、「さめだつまつまといふ」(三)、「さめだつまつまといふ」(版)、「さるたつま」(東河)

二「さねたつまつまといふ」(彰北)、「さねたつまつまといふ」(東)

三「たけをかけたしといふ」(三版東河)

四「からはしともいふ」(三版東河)

五「うかへる物を」(三版東河)

六「ゆたけ」(三版東河)

七「ハしらとゆきたつ浪と云」(三版東河)

八「内裏」(三版)、「フリガナナシ」(東河)

九「春宮を」(三版)、「春宮を」(東)、「フリガナナシ」(北河)

一〇「中宮を」(三版)

一一「筆を」(版)、「フリガナナシ」(北三版東河)

一二「ナシ」(三版東河)

一三「はまちとりの跡とも」(三版東河)

一四「そらごとを」(版)

一五「石しまのちのそらかねといふ」(彰北)

一六「頓なる事を」(河)

一七「九うちはなといふ」(北)

一八「ぬれぎぬといふ」(版東)

一九「かけいしといふ」(彰北)、「けはしといふ」(北)、「よけいしといふ」(三版東河)

二〇「三へたるといふ」(彰北三版東河)

二一「三」を「つまつまといふ」とも読み得るか

二二「三」を「つまつまといふ」とも読み得るか

二三「山のかりうと也」(三版東)、「さつを

よし也」(河)、「以上四本、底本の項目ナシ」

二四「春は」の項目、「いそのかみとは」

二五「あさみどり」(版)

二六「あさみどり」(河)

二七「あさみどり」(河)

二八「あさみどり」(河)

二九「あさみどり」(河)

三〇「あさみどり」(河)

もろしき たましきといふ ぬ中をは いなしき いましきの あきしいといふ 橋をは つく

しね 別をは むらとりといふ 草をは さめたつまつまといふ さねたつまつまとも 竹をは た

けをはかけはしと云 からはしといふ 花をは しめのいろはなたとも てるくさといふ うかへる

物をは うたかたの うつたへると云 雲をは たまたつ ゆくかけ しらとゆき たつの浪と云

内裏 もろしきの宮といふ 春宮をは はるの宮といふ 中宮をは あきの宮といふ 筆を

は 水くき 水くさ はまちとりと云 11 オ そらごとをは いつはりといふ 誠をは あむひこね

といふ 地をは しまのちの あらかねといふ 頓なるごとをは うちはなといふ なぎこと

をは ぬれきぬといふ 山河をは たまみきといふ ひをは した露くまといふ 氷をは かけ

はしといふ ますかみといふ かみをは いろのかみ 虫のす しろたへといふ かみをは ころ

もてといふ ちはくをは むらなきと云 くしをは とよしとといふ すてたる男をは へ

たといふ 11 ウ みそか男をは せつまといふ 11 ウ 暁をは ありあけといふ 父をは たらち

ねといふ 母をは たらちめといふ いそのかみとは ふるき物をいふ 春は かすみしく あ

一五月雨(三)、フリガナナシ(北東)

二しぐれ(版)

三紅葉(版)、フリガナナシ(北三東)

四鹿の音(三)、鹿の音(版)、フリガナナシ(北)、鹿の音(東)

五しらつゆ(三版東河)

六つゆしも(彰)、霜(三版東河)

七五節(版)、フリガナナシ(北三東河)

八神樂(版)、フリガナナシ(北三東河)

九もみぢはの(版)

一〇ちりまがふ山に(版)

一一みのしろならぬいろころもきつ

一二「にほてるや」の項目ーナシ(北)

一三山がつとは(版)

一四あやしき人をも(東)、いやしき人をも云(河)

一五山さとにすむをいふ(彰北三版東河)

一六すかのねとは(版)

一七やますげをいふ(版河)

一八そらをいふ(北)

一九かすかとは(三版東河)

二〇さすがにといふ事也(版)、さすかなといふ事也(河)

二一「とよめり」ーナシ(三版東河)

二二ときからのみといふ(彰北三版東河)

二三「かすおほきをは」の項目、「橋」をはの項目の前にあり(河)

二四きえねといふ(彰)、きゝねといふ(北)

二五庭の水を(三版東河)

さみとり さをひめ むめのはな さくら うくひす 夏は 五月雨 かけるふ 白露 やくもたつ 卯

花 ほととぎす 秋は きり ひくらし はつ鷹 時雨 紅葉 鹿ね 冬は しらつゆころ つゆしも

氷 五節 神樂 もみぢはのちりまがふ山に ましらひてみのしならぬいろころもきつ」12オ あら

かねとは みしき心をいふ わたのはらとは しほうみをいふ をしてるやとも じほてる

やとは 水海を云 いはし水とは やはたなり しら山をいふ みつといふ たましきとは

宮こなり いつまで草とは すなこのうくをいふ 山かつとは 物おもひしらぬを云 あやしき

人をもいふ 山さとにすむともいふ すかのねとは やますげをいふ 月とは 人をとこといふ

かつらおとこといふ ひさかたとは そらをいふ也 しかすかには ますかといふことなり

月よめはいまたふゆなりしかすかにかすみたなひく春はたちぎぬ とよめり」ウ 橋をは

ゆりのえ 異本 ほのえさらとめくのみといふ ときくからのみといふ かすおほきをは つくは

ねといふ ともしをば をしてるといふ ふちをば うみまつといふ ゆくをば いきまく き

られといふ めをうとをば たまひこく たひのねしきといふ 庭水をば あまたつみ みわたつ

「大臣」を(三版)、フリガナナシ(北東河)  
二はけなひくとも(河)

三もりを(三版東)  
四「山ひとといふ」そのを「ナシ(東)

五なかとみのとも(東)  
六あらちを(東)

七あさらといふ(彰三版東河)  
八ふきを(版東)ふきを(河)

\*くし(河)  
九「梅を」以下、記載順に異同あり(三版東河、三手本解題参照)

〇とりねのすきと云(三版東河)  
二つじを(版東)つじを(河)

三くさぶきといふ(彰北版東)くさぶきといふ(三)くさぶきといふ(河)くたふきといふ(三版東河)

逆(三版東河)  
三いなしきと云(彰北三版東)

四かむじを(東)  
五なつかめと云(河)

六るたつと云(河)  
七むきとびを(三版東)

八みつたといふ(三版東河)  
九きはかえといふ(東)

〇きいつといふ(彰北三版東河)  
三うさきを(版)

三ころを(河)  
三あさそふといふ(彰北三版東河)

四又いもさちか(彰北三版東)いもさしかちと云(河)

五あつみりを(三版東河)  
六すみいろ(彰北三版東河)

七七夕を(三版河)フリガナナシ(北東)  
八ひこぼし(版)

みといふ 大臣<sup>一</sup>をは かきなひく かくなひくといふ きたむき かけなひくとも もりをは 山<sup>四</sup>

ひこといふ いらなりとも そのをは なかとみのともいふ いつみをは なかしといふ たを

は あさつ あかねさす おうち<sup>十</sup>をは いとはすといふ<sup>二</sup> 芹<sup>十三</sup>をは あさしといふ ふき<sup>八</sup>

をは あかりなといふ おほねをは くちこしといふ ちさをは かしねのといふ 梅<sup>九</sup>

をは とりねすきと云 桜<sup>六</sup>をは にほひえといふ つし<sup>二</sup>をは くだぶきといふ いなぶきと

云 かむし<sup>四</sup>をは ほのえといふ 山も<sup>五</sup>をは なつかりと云 はと<sup>三</sup>をは 家<sup>一</sup>たつといふ

つきの木<sup>三</sup>をは のこらすと云 いかるか<sup>三</sup>をは こたちといふ むさ<sup>二</sup>ぶひ<sup>一</sup>をは さためす

といふ そひ<sup>六</sup>をは みつたつといふ<sup>一</sup> 13ウ すめ<sup>一</sup>をは たはたつといふ いぬ<sup>一</sup>をは き

はかみといふ きはつといふ うさ<sup>三</sup>きは 月のわといふ たぬ<sup>三</sup>きは しのやまきといふ

とら<sup>三</sup>をは あさ<sup>三</sup>ちふといふ 山<sup>三</sup>のうへ<sup>三</sup>をは あまはなひめといふ よのはしめ<sup>三</sup>をは こかね

やと云 螢<sup>一</sup>をは はるたまといふ 又<sup>三</sup>いもさるか<sup>三</sup>しと云 あつ<sup>三</sup>かり<sup>三</sup>をは かはところと云 形<sup>一</sup>

は ますみ色といふ すみいろとも 七<sup>七</sup>夕<sup>十</sup>をは たなはたといふ いぬか<sup>一</sup>ひ星<sup>一</sup>をは ひこぼしと

「かべにおふるさゝを(三版東)、かべおふるさゝを(河)

二よの物の始を(北三版東河)

「やましたのと云(河)、「やました水といふ」  
↓75頁11行「煙をは」に移る(河)

四「中少将を」以下、記載位置に異同あり

(三)「三手本解題参照」(版東・版本解題参照)「中少将を」は「神風といふ」ナシ(河)

「すかひえかたといふ(北三版東)

「左右衛門を(版) フリガナナシ(北三東)

「くしげを(三版東)

「八たまくしげといふ(版東)

「み逢をは(版) フリガナナシ(東)

「おかくこと草といふ(彰)

二「暫といふ事をは(彰北三版東)

三「たまゆらといふ」↓74頁10行「京をは」に移る(河)

三「もの忘をは」は「つくはねと云」ナシ(河)

二「物ねたみをは(彰北三版東)

五「しつのおだまきといふ(版)

二「物荷て馬に乗をは(彰北)物荷て馬にのるをは(三)物荷て馬に乗をは(版)物荷て馬に乗をは(東)物荷て馬に乗をは(河)

七「絛をは(三版東) 絛をは(河) フリガナナシ(北)

八「たましほくと(河)

九「しらたまねとも(河)

いふ なみしめむとは あきのなより」オ 花にをく露をは いつまで花ニをく露と云 か

へにおふるさゝを(は) たまつといふ よの物ノ始を(は) はこなやまといふ あひあはぬを

は やました水といふ 中少将を(は) すか。はかたといふ 兵衛を(は) かしはきといふ よ

ひをは(は) さよといふ よなかをは(は) よはといふ ちのさき石を(は) さくれ石といふ た

うときをは(は) たまのうてなどいふ 家をは(は) やといふ 殿上を(は) くものうへといふ 右

衛門を(は) みかきもりといふ くしげを(は) たまくしげといふ」ウ 蓬を(は) かくも草といふ

伊勢を(は) 神風といふ 暫といふ事を(は) たまゆらといふ もの忘をは(は) うたかたといふ

うたゝねといふ 物ねたみを(は) ことほりといふ おほぬさを(は) つくはねと云 壺に藍染

物をは(は) しつのをたまきといふ 葦をは(は) なにはによむへし 物荷て馬に乗をは(は) しかすか

ともいふ たゆたふとは(は) くものした也 ふてふりとは(は) まひなり 親をは(は) ふる。きとい

ふ 船をは(は) なたかたといふ」オ きりをは(は) ほのよりとも(は) ほのゆけるとも(は) たましほくととも

霞をは(は) しらたへの(は) しらたまねと云(は) しらたひめとも(は) 人の中を(は) ますみ色といふ(は) そこに

一なみしほと云(河)  
 二やまふき(三)  
 三菊の花(東)  
 四たまだすき(版)  
 五ゆふたすき(版)  
 六たまかつら(版)  
 七これよつをはかくとよむへし(彰北三版東河)  
 八さいたつ(三)、さいたり(東) 本ノマ、  
 九さあたる(彰北、さあたと云(河)  
 一〇山がほといふ(三版)、山かはといふ(東)、  
 山がほといふ(河)  
 一一やたひをくとも(三版東河)  
 一二むすふとも(三版東河)  
 一三ざちひこといふ(三版東河)  
 一四いろさらすとも(三版東河)  
 一五あまりふるとも(彰北三版河) あまり  
 ふるとも(東)  
 一六あかつきはなるゝ程をは(二版東河)  
 一七晩をは(版)、晩を(河)、フリガナナシ  
 (北三東)  
 一八「ゆふされといふ」一ナシ(河)  
 一九すがのねといふ(版東河)  
 二〇むすぶといふ(版河)

すむあまをは <sup>一</sup>なみしなど云 <sup>二</sup>おみなへし <sup>三</sup>なてしこ <sup>四</sup>やまふき <sup>五</sup>菊花 <sup>六</sup>藤 <sup>七</sup>梅 <sup>八</sup>萩  
 これらはにほふとよむへし <sup>九</sup>たまたすき <sup>一〇</sup>から衣 <sup>一一</sup>ゆふたすき <sup>一二</sup>たまかつら <sup>一三</sup>これはよつ  
 をはかくとよむへし <sup>一四</sup>草をは <sup>一五</sup>さみたつま <sup>一六</sup>さみたま <sup>一七</sup>さみたり <sup>一八</sup>黒物をは <sup>一九</sup>むはたまといふ  
 人しれぬ思をは <sup>二〇</sup>山かはと云 <sup>二一</sup>あひて不遇をは <sup>二二</sup>山した露といふ <sup>二三</sup>霜 <sup>二四</sup>をくといふ  
 やたひをくともいふ <sup>二五</sup>むすふともいふ <sup>二六</sup>私みるつゆ <sup>二七</sup>さちひこといふ <sup>二八</sup>さらひらくといふ <sup>二九</sup>雪  
 かたひら雪といふ <sup>三〇</sup>いろさらすともいふ <sup>三一</sup>あまりなるともいふ <sup>三二</sup>異本 <sup>三三</sup>あらふるといふ <sup>三四</sup>晩  
 あかつきはなるゝ程をは <sup>三五</sup>しのゝめといふ <sup>三六</sup>あけはなるゝそらのしのゝめにゝたるなり <sup>三七</sup>晩を  
 は <sup>三八</sup>ゆふくれといふ <sup>三九</sup>ゆふされといふ <sup>四〇</sup>たそかれ時ともいふ <sup>四一</sup>異本 <sup>四二</sup>ゆふさといふ <sup>四三</sup>春日 <sup>四四</sup>すか  
 のねといふ <sup>四五</sup>かすみといふ <sup>四六</sup>草のねの「オなかきに。そへたり <sup>四七</sup>露をは <sup>四八</sup>おくといふ <sup>四九</sup>むすぶ  
 といふ <sup>五〇</sup>人をは <sup>五一</sup>おのかといふ <sup>五二</sup>ものゝふといふ <sup>五三</sup>たけきものを <sup>五四</sup>ものゝふといふなるへし  
 私さすかけといふ <sup>五五</sup>御門をは <sup>五六</sup>すへらぎとまうす <sup>五七</sup>后をは <sup>五八</sup>すへきにはと申 <sup>五九</sup>男をは  
 せこといふ <sup>六〇</sup>せなともいふ <sup>六一</sup>いはたねともいふ <sup>六二</sup>たまくらともいふ <sup>六三</sup>いはたまともいふ「<sup>六四</sup>

16ウ

てをしふらては(本行右二行分の余白に「如本上ノ句ナシ」と注記あり)(三版東、  
「てをしふらては」とよめり)一ナシ(河)  
二花のつほめるを(河)

三つゝめりといふ(彰)、つくめりと云(河)

四ふゝとりといふ(彰)、ふゝめりといふ(北)、  
ふくめりといふ(三版東河)  
五梅の花(三版東、「梅の花」47頁3行  
「のりにけるかな」一ナシ(河)  
六君かくるひを(彰三版東)  
七かたまちかてら(北三版東)  
八この歌の第四右肩に「如本落字有歌」と  
あり(三版、第一句右肩に「如本落字有  
歌」とあり(東)  
九したり柳に(以下同)(三)

一〇みかさ山(三版東河)

二中少将をよめり(三版東、中少将をよ  
めり(河)、フリガナナシ(彰北東)

三・三おとろの道とは 公卿をいふ也(三版  
河)、おとろの道とは 公卿をいふ(東)、  
おとろの道とは公卿をいふ也(河)、以上  
四本、底本の項目ナシ)

五はるの柳はもえにけるかなかも(東、「は  
るの柳は」とも)一ナシ(河)

六つほすみれともいふ(版)

七「春の」に「とよめり」一ナシ(河)

八「七」といふ一ナシ(三版東)

九ハわかせこが(以下同)(版)

一〇みゝしぎとは(三版)

一一鳥のこつたふを云(河)

一二「さくらにはな」とよめり一ナシ(河)

一三うぐひすの(以下同)(版)

一四いかにあるらんとよめり(東)

一五夕〓れは(以下同)(河)

てをしふらては花はちるとも とよめり 花のつほめるをは つゝめりといふ ふゝめりと

いふ 梅花 つほめるそのにわれはゆかん君かつかひをかたさちかてら とよめり まよふ

とは はるくれはしたり柳のまよふいとこのくもかよるにのりにけるかな みかさやま。とは中

少将をいふ かしはぎとは ひやうゑをいふ もゆとは はる草のはしめてもえいつるを云

草はもえなん とよめり はるの柳はもえにけるかなとも 17オ すみれとは すかのといふ草のな

り つほすみれともいふ 春のゝにすみれつみにとこしわれそ野をむつましみひとよねにける

といふ とよめり うらかなしとは うらめつらしといふ わかせこか衣のすそをふきかへし

うらめつらしきあきのはつかせ とよめり 柳をかつらとよめり あをやきのかつらにすへて

なるまゝに とよめり もゝしぎとは うちをいふ もゝしぎの大官人 とよめり 17ウ 枝

よみわたるとは 鳥のこつたふをいふ さくらにはなこつたひわたるうぐひすのうつろひやすき

心もたらず とよめり しぎくとは しきりといふ 春さめのしぎくふるにたかまつの

せまのさくらはなにかある覽 雨をたなひくとよめり 春さめのたなひくけふのゆふくれ



「おとらざりけりとよめり(東)、おとらざりけり(河)」

「夜とよもに(彰)、夜とよもにとは(北三版東河)」

「いさゝめととよめり」一ナシ(河)

「とよめり」一ナシ(三版東)

「海うらなとの(三河)」

「ふちをいふ(版)」

「七ふちなみの(北三版東)、「ふちなみの」みつゝしのはな」一ナシ(河)

「八うちめぐりつ(彰北)、うちめぐりつ(版)」

「みつゝしのはな(北)」

「なにはめとは(三版東)」

「あくるわひしき(東)」

「とよめり」一ナシ(三版東河)

「しづえとは(版河)」

「木のしたえた(三)、木のしたえたを云也(版東)、木の下枝を云也(河)」

「うたかたとは(木のま)」一ナシ(河)

「不えたはかなきよをたのむ(彰北三版東)」

「しりとは(三版東河)」

「八雪のふりかゝりたる雪のおつるをいふ(三版東河)」

「は月もさくらにを」とらざりけり」<sup>18オ</sup>

人とは ひとのあつまりたるをいふ

ひしものをたこのうらにさけるふちなみひとよへぬへし」とよめり

との 浪たゝすさはかぬをいふ

こそはうちめぐりつゝみつゝしのはな」<sup>18ウ</sup>

なにはめにあるとはなしにあしのねのよのみしかくてあくるわひしも」とよめり

木のしたえたをいふ

うたかたとは

をたのむ 本のまゝ

しつりとは

く山のしつりのしたの袖なれやおもひのほかになれぬと思は

にきなる物をはふかいろといふなり

てこらさ」とよめり

そふとは

ゑくつむとゆきけの水にもすそぬらしつ

「夜とよもにとは(北三版東河)」

「いさゝめとは(彰北)、「いさゝめとおもひしものをたこのうらにさけるふちなみひとよへぬへし」とよめり

「なきたりとは(海そらな)」

「の 浪たゝすさはかぬをいふ(版)」

「こそはうちめぐりつゝみつゝしのはな」一ナシ(河)

「なにはめにあるとはなしにあしのねのよのみしかくてあくるわひしも」とよめり

「木のしたえたをいふ(三版東河)」

「うたかたとは(木のま)」一ナシ(河)

「く山のしつりのしたの袖なれやおもひのほかになれぬと思は(版)」

「にきなる物をはふかいろといふなり(東)」

「てこらさ」とよめり(版東)

「そふとは(三版東河)」

「ゑくつむとゆきけの水にもすそぬらしつ(版)」

「つくはねとは(版)」

「山のみねを云也(版東)」

「山の月かさなれ(版)」

「山のみねを云也(版東)」

るなり」ウ <sup>19</sup> この。もてかのおもてといふかつくはねのこのもかのもにたちよする春のみ山のか

けをこひつゝとよあり 何波とは <sup>ナニナミ</sup> なにはといふ所をいふ 忘貝とは <sup>ワスレガイ</sup> うみによるかひを

いふ たまかつらとは <sup>一</sup> かくといふ <sup>二</sup> かつらなり あつぎ弓とは <sup>三</sup> はるといはとて <sup>四</sup> まつあつ

さゆみと云 わたつみのはらとは <sup>五</sup> くもをいふ <sup>六</sup> はまちとりとは <sup>七</sup> ふみをいふ <sup>八</sup> たかさこ

とは <sup>九</sup> しかをいふ <sup>一〇</sup> わたつみとは <sup>一一</sup> うみをいふ <sup>一二</sup> さすかけとは <sup>一三</sup> 日をいふ <sup>一四</sup> さゝかには

くもを云 <sup>一五</sup> ゆふくれなどによむへし <sup>一六</sup> あるひめとは <sup>一七</sup> 夏をそむる神をいふ <sup>一八</sup> あかねさすと

は <sup>一九</sup> 山のはに月のいるをいふ <sup>二〇</sup> もろしきとは <sup>二一</sup> み中をいふ <sup>二二</sup> いなしきとは <sup>二三</sup> うきたる物を云 <sup>二四</sup> う

れしき物をいふ <sup>二五</sup> みそきとは <sup>二六</sup> はらへをいふ <sup>二七</sup> かれこひとは <sup>二八</sup> ともしを云 <sup>二九</sup> ふるきとは <sup>三〇</sup> お

やをいふ <sup>三一</sup> あまごこちとは <sup>三二</sup> やまをいふ <sup>三三</sup> たまたれとは <sup>三四</sup> すたれを云 <sup>三五</sup> 地をは <sup>三六</sup> しまのねと

いふ <sup>三七</sup> さりちねとは <sup>三八</sup> きしを云 <sup>三九</sup> あまそきとは <sup>四〇</sup> たかきみねをいふ <sup>四一</sup> きしをも云 <sup>四二</sup> かきな

ひくとは <sup>四三</sup> つゝみをいふ <sup>四四</sup> いくはてくとは <sup>四五</sup> 男女の中をいふ <sup>四六</sup> いそをは <sup>四七</sup> ちりなみといふ <sup>四八</sup>

いはをは <sup>四九</sup> ちかぬしきといふ <sup>五〇</sup> きそのねしまと云 <sup>五一</sup> よそのしまとも <sup>五二</sup> あは雪とは <sup>五三</sup> はるの雪をいふ <sup>五四</sup>

一 たまかつらとは (版)  
二 かつらなり (版)

三 はるといとはとて (彰)、はるといはんとて (北三版東河)

四 まつあつさゆみといふなり (三版東河)

五 わたつみのはらとは (三版東河)

六 くもをいふなり (三版、口を云)

七 へハあこ あみひく事也 はとくは鳩のまねひて人のふく也 (三版東河、あこ)

八 あみひく也 (以下同上) (東、以上四本、底本の項目ナシ)

九 わたつらみとは (三)

一〇 さゝかには (河)

一一・三いはゝのはなどは むしろをいふ (三版東河)、(以上四本、底本の項目ナシ)

一二 うれしき物といふ (彰北三版東河)

一三 みそきは (三版東)

一四 たかきみねをいふ (彰)

一五 よふねしたといふ (彰北三版東河)  
一六 きそのねしまと云 (三版東河)

一をれはとよめるは(三版東河)

二「やまかかくとよめり」一ナシ(河)  
三ぬをせ  
三ぬをせをれは(彰)、いぬぬしせれはう  
くひすの(北)、いぬぬしをれはうくひす  
の(三版東)

四なくなる声はあさなく(彰北三版東)  
五いましきのきしきのといふ(彰北)  
六あかをしてるやと云(北三版東河)

七ちりくらしなみ(北)、ちりくら、しらな  
み(三版)、ちりく(ら) 本ノマ、 しらなみ(東)、  
白浪(河)

八ナシ(河)  
九したしき中を(河)  
一〇かひのえといふ(北)

二たをやめとも(三版東河)

三こしといふ(彰北三版東河)

三ある人の抄に云(東河)

四なるとみとも(河)  
五「あまの河とも」一「ならとみといふ」の  
次にあり(河)  
六時のまとも(三版東河)  
七たかき木を(北三版東河)

八殊を(北三)、殊を(版東)

すくもひとは すくもにつけるひをいふ をれはとよめり いぬぬせるを云 やまちかくい

ぬをせ  
ふをせをれはうくひすのなくなる声はあさなく(きく)とよめり 田舎を(いましきのきし

きのをいふ そらを おほぬさといふ なかとみといふ 水海を(あをしてるやと云)ますか、  
みとも にほてるやとも よそねしまとも 浪を(ちりくらしらたの)ちりくらしらなみ」オ ありそ

みといふ ちりくしらとも たみを(かちくゆくと云)いはくゆきとも いちくゆくととも

人をは ころねしまといふ したしき中を(かひのえといふ) たをとこを(いはなひく

といふ 女を(うしけやといふ)たをやめ たくふ覽とは(くしてやある覽といふ) 北国を

は <sup>三</sup>こしをいふ  
二ある人の抄云

天を(ならとみといふ)あまのはら(なかとみとも)あまの河とも」ウ 時を(しまのね)つか

のまといふ 時のまともいふ 海を(をしてるや)わたつみといふ たかき木を(あまそぎと

云 峰を(山たかみといふ)さちつねといふ 珠を(いはたならといふ)いはたきとも 神

「ならおは」→「ますみ色といふ」→ナシ、  
代りに独自項目あり(三版東河、三手本解  
題参照)

二あをによしといふ(北)

三「かみをは」以下、記載位置に異同あり

(三版東、三手本解題参照)、「かみをは」

「いそぎぬといふ」→ナシ(河)

(東)「だまといふ(東)

五かくなはといふ(三版東)

六「かくはなはといふ」→ナシ(三版東)

七「ハしつはたとは」ひとへにといふ事也

布によせていへり 身にいたつぎとい

たうかはしきをいふなり(三版東、但し版

本「しづはたとは」とあり)、(以上三本、

底本の項目ナシ)

九「ころをひと云」→55頁1行「き」すとは

く)に移る(河)

一〇「春をは」→「かけみひのといふ」→ナシ

(河)

二まつゆきかけひく(三版河)、まつゆきか

けなひく(東)

三たまひといふ(東)

四くれまくれとも(三版東河)

五「又めつらしきといふ」たまひきのとい

ふ」→ナシ(河)

六たまひきのといふ(北三版東)

七「ぬはたまといふ」→ナシ(河)

八あらはなるおとこを(三版河)

九「しやうぶをは」(三版東)

一〇・三あまのいそなつむをは「めさしといふ

(三版東河)、(以上四本、底本の項目なし)

一一さすかけといふ(彰北三版東河)

一二種をは(版)、フリガナナシ(北三東河)

をは ちはやふる 一 たらをは 二 あをにしきといふ 三 父をは 四 たらちね 五 たまほこといふ 六 たらち

をともしふ 母をは 七 たらちめ 八 たまほことも 九 たらちねともいふ 一〇 かたちをは 一一 ますいる 一二 ます

み色といふ 二 かみをは 三 したたま 四 てるたまといふ 五 心をは 六 かくなは 七 かくはなはといふ

なくらはといふ 八 おもひをは 九 わくなみといふ 一〇 歳をは 一一 あらたまといふ 一二 枕をは 一三 したたへ

といふ 衣をは 一四 しろたえ 一五 いそぎぬといふ 一六 旬をは 一七 ころをひと云 一八 春をは 一九 しらつゆ

花た 夏をは 二〇 かけそひく 二一 かけをひく 二二 かけみひのといふ 二三 冬をは 二四 まろゆきかけひく 二五 あ

したをは 二六 たまひさし 二七 たまひこといふ 二八 ゆふくれとも 二九 くれまくれといふ 三〇 又めつらしきといふ

三十一 たまひきのといふ 三十二 ゆふさりをは 三十三 すみそめといふ 三十四 ゆめをは 三十五 ぬるたま 三六 むはたま 三七

はたまといふ 三十八 二 九 三 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

はたまといふ 二十九 三 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

あをによしと云 三 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

いふ おやはは 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 絛ヌをは (三版東河)

二 かはほはしども (彰北三版東河)  
三 あしかき (北)

四 のこる物をは (三版東河)

五 忘ぬものを (三三)、忘ぬものを (版)、忘れぬものを (東)、忘れぬものを (河)

六 うたゝねの友 (三版東河)

七 鹿カをは (版河)、フリガナナシ (北三東)

八 ちよ鳥 (彰北三版東河)

九 郭公クワクを (三版東河)

一〇 してのたをさとも (三版東河)

一一 雨アメのふりおつるを (三版東河)

一二 まつに人ヒトおしてるともいふ (一ナシ (三版東河))

三ものなとたゞきて (三版東河)  
四 ひらきのきこゆるなり (三版)、ひらきのきこゆるなり (東河)

五 異本イホンへさすを云 (一ナシ (河))

六 うウ(か)めとは (三)

七 なへてのはまなり (彰北三版東河)

八 異本イホンへそら也 (一ナシ (河))

九 夕ツ暮ムのうら也 (三)

一〇 あさらなき也 (三版東河)

ほのゆけるといふ 船フネをは にはたつみ うたかたと云 あたらしき物をは なひくなみと

いふ ふるき物をは いそのかみ かはほしども いそのふけとも 23オ 短物ミジカモノをは あらかきた

まのをといふ 残物コソレルモノをは いさらなみといふ 忘物ワスレモノをは うたゝね うたゝねのとも うた

かたといふ 鹿シカをは たかきこによむといふ かりをは ちよ鳥チヨトリ さよ鳥サヨトリ あまとアマトも

郭公クワクをハ とけをしほといふ してのたをさともいふ 雨アメのふりおつるをハ かクもく

さ ありもくざといふ しまをは なみしなむといふ まつに人ヒトことも云 おしてるともいふ

さうしをは よろつと云 たちをは みつのもたといふ 23ウ やまひことは おと

きゝをいふ 三ものなとたゞきてきこゆるなり あかほさすとは 山ヤマのはに月のいつ

るをいふ 異本イホンやまのはにひのさすを云 こゝのへとは おほみやなり あらアラのさきと

は 人ヒトの中をさくる神をいふ さくる神とも かたとは 海ウミにしほのさすところをいふ み

るめとは うみにおふる物をいふ 24オ おほぬさとは なへての(は)たなり 異本イホンゆふく

れのそら也 なみしなむとは あさらなきなり よろつとは さうしなり つかのま

一夏おふる草也(三版東河)

二ちきはせとは(東)  
三もちどりとは(版)

四「よめはなることなり」一ナシ(河)  
五なといふ事也(三版東)

六舟さすきほを云(三版東)、舟さすきほを云(河)

七鳥の(河)  
八人のこと家にわたるをいふ(三版東河)

九「あまくもくふりつ」といふ一ナシ(河)  
一〇くもるを(彩北三版)

一一たしるきを云(三版東河)  
一二あさぎりとは(版河)

一三「うらなひのつきぬらしとよめり」一ナシ(河)

一四「ゆふ霧きりをいふ」一ナシ(河)  
一五ゆふさりたつきり也(東)  
一六若木(三版東)、「若木とはくつとよめり」一ナシ(河)

とは ときなり めあはする程をいふ 浦とは 海のうらなり すかはらとは 袖うちか

はすを云 ものをかさぬる心也 たまたれとは すたれ也 夏草とは 夏<sup>一</sup>おふくさなり

七<sup>二</sup>ちきぢよせとは よまらと云 もちどりとは ひやくなり 千なり」<sup>24</sup>ウ 月よめは 月

よにあればといふ事也 よめは よせめにあればなといふやうなることなり みなれさほと

は<sup>八</sup>ふねさすきほといふ すくもとは 野にかれたる草をのしのかきあつめたるをいふ

うつろふとは うつるをいふ 鳥<sup>四</sup>などの こつたふをいふ 人<sup>八</sup>のこといゑにわたるをいふ

ふ あまくもきりあひとは ゆきのふるをりにく<sup>一〇</sup>もるをいふ あまくもきりあひ雪はふりつ

くといふ つゆしもとは あきのしもをいふ」<sup>25</sup>オ 白たえとは 白<sup>二</sup>きをいふなり あ<sup>三</sup>さ

きりとは つとめてたつをいふ 山かたつけてとは よに人の山かたかけてすむをいふ う<sup>三</sup>ら

なひのとは 春をいふ うらなひきはるはきぬらしなどよめり たなきりあひとは ゆきのふる

にくもるをいふ ゆ<sup>一四</sup>ふ霧とは ゆ<sup>二</sup>ふさりたつきりをいふ けぬとは 露<sup>二</sup>きりしもなどのき

ゆるをいふ ねこしてうふとは 木<sup>二</sup>などをほりてうふるをいふ 若<sup>二</sup>木とは わか<sup>一</sup>きの梅<sup>一</sup>な

一雪をうはひて(河)  
 二さけるを梅をいふ(彩)、さける梅などをいふなり(三) さける梅をいふなり(版東河)  
 三梅の花まつさく枝を(三版東、「梅花」)「こそあをいふ」一ナシ(河)  
 四たをりてもてなとよめり(彰北三版東) 季夕されとは(三版、夕されは(河) 六「ゆふさりをいふ」↓51頁1行一ならを七「あさな」とは)以下、位置に異同あり(三版東、三手本解題参照)  
 八あしたく(とふ事也)一ナシ(河) 九「ひによせて」はなとよめり(河) 一〇おかはちりへみ(以下同)一(北版、おりはちりへみ(以下同) (三) なかはちりへみ(以下同) (東) 三版東河) 一一はたらにとは(三版東河) 一二またうといふ事也(版) 一三にはもはたらにとよめり一ナシ(河) 一四ながらへてとは(版) 一五千(鳥)つまよふとは(北、千鳥つまよふ)かみなひのもり一ナシ(河) 一六つまこひとは(三版東河) 一七妻をこふるをいふ(東、但し三手本「つまを」とあり)、「つまこふるをいふ」↓51頁6行「冬を」一に移る(河) 一八あふさかのゆふつけ鳥とは(北三版東)、「あふさかのゆふつけ鳥とは」↓55頁1行「とよめり」一ナシ(河) 一九おほやけのまつりせらるゝ時に(以下同) (彰北三版東) 二〇「ゆふくれの月よをいふ」一ナシ(三版東) 二一「とよめり」一ナシ(三版東) 二二萩のふるえとは(彰北三版東、萩のふるえとは(版) 二三霜にかれたるふる葉をいふ(三版東) 二四くたら野とは(三版東) 二五はるまつと(以下同) (彰北三版東) 二六「とよめり」一ナシ(三版東) 二七かすがの里の(以下同) (版)

とよめり むはあなとは 雪の色をうはひてさける梅をいふ(河) 25 たをりてとは てにおりも  
 たるをいふ 梅花まつさくえたをたをりてもてなとよめり され。とは くれはといふ 春されはなど  
 よめり ゆふされとは ゆふさりをいふ きませとは こといふことなり このうれ  
 とは こそあをいふ あさなくとは あしたくといふ事也 へみとは へしといふ事也  
 ひによせておらはちりへみむめのはなとよめり はたらとは またらといふこと也 にはもはたらに  
 とよめり なからへてとは ひさしきをいふ 千鳥つまよふとは きよきせに千鳥つまよ  
 ふ山のはに「オ神やたつ覧かみなひのもり つま恋とは つまこふるをいふ あふさか  
 のゆふつけ鳥とは おほやけのまつり」とをせらるゝ時にゆふをつけてあふさかにはなつをいふ ゆふ  
 つくよとは ゆふくれの月よをいふ はるかすみたなひくけふのゆふつくよきよくてる覧たか  
 まつの下に はるされはこのくれもとのゆふつくよおほつかなしや山かけにして とよめり  
 萩のふちえとは 霜かれのふるはを云 冬の野にあり」 26ウ くだらのよとは くだらのよ  
 萩のふるえに在るまつとおりし鶯なきにけらしも とよめり 山した風とは 霞たつかすか

一「とよめり」一ナシ(三版東)  
 二きじをいふなり(版東河)  
 三すかるとは(彰北三)ナシ、ナがるとは(版東、  
 四すかなとはは)の項目一ナシ(河)  
 五おさなきしかをいふなり(三版東)  
 六しられつゝといふ事也(三版東河)  
 七「しられつゝ」とに移る(河)→45頁7行「暫とい  
 八「はるの」に「74頁5行」かけなひくと  
 九も一ナシ(河)  
 八妻乞に(版)、妻乞ひに(東)  
 九をのがりか人をにしれつゝ(版)  
 〇「とよめり」一ナシ(三版東)  
 一ありかをは(東)  
 二さまへ(三版東)  
 三さわべのべ(三版)、さわべのへ(東)  
 四いけべ(三版)  
 五河べ(三版)  
 六のしりひゝかすをいふ(三版東)  
 七こひもしれとや郭公(東)  
 八ものおもふときに(三版東)  
 九「なきとよめり」一ナシ、但し「如本」と  
 あり(三版東)  
 〇きてみるへき(彰北三版東)  
 二人もあらず(三版東)  
 三花のやう(虫喰)  
 四うへし人のといふ事也(三版東)  
 五うへし人のといふ事也(三版東)  
 六うへしこのか(北)、うへしこら(三版東)  
 七云むらさきの雲とは、きさきの事をいふ  
 (三版東)、以上三本、底本の項目ナシ)  
 八七おほつか(三版東)  
 九「あふかるゝ」の歌、「たくゑてそやる  
 といふ」の後にあり(三版東)  
 〇「とよめり」一ナシ(三版東)  
 一ねそとは(彰北三版東)  
 二さりと(彰)、さかとは(北三版東)  
 三ものゝくせなといふ(彰三版東)、ものゝ  
 くれなといふ(北)

のさとのむめのはなやました風にちりこすなゆめ とよめり きゝすととは きしをいふなり  
 すかなとは おさなきしかをいふ しれつゝとは しられつゝといふ はるのゝにあさるき  
 ますのつまこひにをのかありか人をにしれつゝ とよめり ありかとは あり所をいふ  
 さまへ さはへのへ いけへ 河へ そのほとりをいふ とよむとは のしりひゝかす  
 をいふ 恋しなはこひもしねとやほとゝきすもの思ふとき なぎとよめり きてみるへと  
 は きて見るへしと云ことなり きてみるへく人もあらずに とよめり ことりぬとは  
 花のやうくちりかたになりて おとろえたるをいふ うへしこのとは うへし人のといふ  
 わかやとの梅はこたりぬうへしこか 思ふ中をは なくなみといふ 衣をは 白た  
 27ウ  
 へといふ 袴をは かりそめといふ ほのかなるをは かけろふと云 おほつかなども あ  
 ふかるゝ心はかりはやまさくらたへぬる人にたくゑてそやる とよめり たくゑてとは た  
 くゑてそやるといふ たもとは みそや河に魚すくふ物をいふ まろたとは 山のに  
 あるいゑをいふ そらなにもあり ねそをは ねそをいふ さりととは ものゝくせな



一ほくしのともしとは(彰北三版東)  
二こしに火ともす也(三版東)

といふか 一ほくしのともしをは 二こしに火。ともす也」  
28オ

国々の所々名

山城国

三おとは山(三)  
四その池 あかたの井」の順が逆(三版東)

おとは山 ふしみ山 深草山 稲荷山 いはし水 かもカモの社 えエの松はら 二その池 あかたの井

季宇治川(版) フリガナナシ(北三東)  
六ならせ池(版)

広幡宮 桂河 大井河 宇治河 みなせ河 なゝせかは 白河 あかの森 衣手森 はらへの

七衣手の杜(三東、衣手の森(版)、フリガナナシ(北)  
八おぐら山(版)

森 かざとり山 男やま とりふ山 水の森 おくらやま せうなこのもり」ウ 松之崎 をし

九恥の森(彰)、はづしの杜(三版)、はづしの杜(東)

ほやま 恥の森 ふちせ山 鞍馬やま 紫野 綱笠をか 御垂河 大原山 梅津河 うりふ山

一〇衣笠やま(三版東)  
二梅津川(版)、フリガナナシ(北三東)  
三なゝせの池(三東)  
四ながをか(版)  
五さが山(三版)

いりこやま ならせの池 なかをか さかのうち山 しめしの山 さかやま うのはら 淀河

六そのはら  
七たけの森  
八たけの森

おとはの瀧 つらゝ坂 うちはし 伏見里 はゝその森 からはし あめ山の森 たいふの森

九いづみ河(版)  
一〇小倉イ  
一一かもやま(北)

しめしの ことからしの森 和泉河 かもやま 水のみ こひのもり山」オ 29 いはたの森 あら

一二水のみ(三版東)  
一三さての森(三版東)  
一四あさ入山(三)

しやま かはたき かめやま さくらたに きての里 ふなをか なるたき 29 あさ人山 ひら野

草の森 かうしのをか 白河のたき いひをか 衣のさと ふちのもり まかせ山 みくらや

一「たこの井 きよみつ」一ナシ(東)

二「十六」一ナシ(三版東)

三「さる沢の池」(三版東)

四「みなれかは よしの河」の順が逆(三版東)

五「鶯のうら」(三版東)

六「朝のはら」(影版)、フリガナナシ(北三東)  
七「とみのをかは」(版東)

八「本鳥山」(影北)、本取山(三版)、本取山(東)

九「撰津国」(三版東)

一〇「けるみの浦」以下、記載順に異同あり  
一一「(三版東、三手本解題参照)」

一二「あくたかは」一ナシ(三版東)

一三「ながらの橋」(版)

一四「何波のうら」一ナシ(三版東)

一五「かさ松」一ナシ(三版東)

一六「七なが井の里」(版)

一七「八かへる山」(三版東)

ま 鶯うぐいすのたに 衣うしろのたき あらしのみね さくら井 あめの森 かくらをか みのさと かへて  
の森 梅うめのやま たこの井 きよみつ

大和国 十六 二十九ウ

ふるの社やしろ かつらぎの山 とをちの里 はつせかは みよなし山 さる沢さわ池いけ みかさやま すか

たの池 たつたかは みなれかは よしの河 いはせの森 吉野山よしの いもせかは かほのいけ

ますたの池 かたをかの 水みづのさと あすかゝは しきしま 春日野はるひの さほかは さはやます

かたの たつた山 神なみ山 をはつせ山 みむろのきし いこま山 鶯うぐいすのうら おとはのたき

まつちやま」オ 高たかまの山 くらはし山 松はやま かはらやま 朝あさのはら とみのをかは

ますたかは かねつの山 本鳥山ほんトリノ いかるかの宮 ありすかは

津撰国 十二

住吉すまぎ けるみの浦うら まの浦うら まつかせ あくたかは ながらの橋はし 何波なになみのうら

かさ松 いくたの森 みかみのうら あまのわたり あまのかは あこめの関せき なか井なかいの里ら かへ

一「かめ井(北三版東)  
二「たまさか山(三版東)

三「たぎのかは(北  
四「難波津(三版東)

五「せひはの原(東)

六「河内(三版東)  
七「十四」一ナシ(三版東)

八「なぎさの浦(版)  
九「ふち井の里(版東)  
一〇「ないりその淵(三版東)

一一「いかゝさき(版東)

一二「かたひら島(彰)  
鳥歌

一三「伊賀国(版)、フリガナナシ(北三東)  
一四「四」一ナシ(彰北三版東)

一五「誰そのもり(彰版、誰その松(三  
一六「なげき山(三版)

一七「ならのいはや」一ナシ(三版東)

一八「四」一ナシ(三版東)

りやま」ウ ほり江<sup>ナ</sup>さまの崎<sup>ナ</sup> たまさかの池<sup>一</sup> かめ井<sup>一</sup> みなとかは<sup>二</sup> たまさかの山<sup>二</sup> ぬのひき

のたぎ<sup>三</sup> しまえ<sup>三</sup> 宮アリ<sup>三</sup> たぎのゝは<sup>三</sup> 水のをか<sup>三</sup> まちかねやま<sup>三</sup> はにはつ<sup>三</sup> みをつくし<sup>三</sup> はつか

しの森<sup>ナ</sup> さくら井<sup>ナ</sup> ふちの森<sup>ナ</sup> いはせのもり<sup>ナ</sup> たまさかの松<sup>ナ</sup> ゆきのもり<sup>ナ</sup> いはせのやま<sup>ナ</sup> すみ

のえ<sup>ニ</sup> せひえのはら<sup>ニ</sup> 神なひのもり

河内国<sup>ナカウチノクニ</sup> 十四<sup>セ</sup>

なぎさのうら<sup>ハ</sup> ふち井のさと<sup>ニ</sup> ないかそのふち<sup>三</sup> たかさこのもり<sup>三</sup> しまつの池<sup>三</sup> あまのはら<sup>三</sup> ひ

とつかなき<sup>四</sup> かたしを<sup>四</sup> はま」オ<sup>四</sup> あたしの<sup>四</sup> 松のさと<sup>ニ</sup> いかゝさき<sup>ニ</sup> さやまの池<sup>ニ</sup> かたひら島<sup>ニ</sup>

むさしのゝ池

伊賀国<sup>イハノクニ</sup> 四

誰そのもり<sup>ニ</sup> なげきやま<sup>ニ</sup> かふりのふち<sup>ニ</sup> うしまかは<sup>ニ</sup> つげさと<sup>ニ</sup> くるまかは<sup>ニ</sup> なゝのいはや<sup>ニ</sup>

くらふ山<sup>ニ</sup> ならのいはや<sup>ニ</sup>

和泉国<sup>イヅミノクニ</sup> 四



はし 宮ちやま かりは野

遠江国 十二

もるやま むはたま なみその関 てうちのわたり やましな はなはし また松 はまのは

し「ウ あぶくま山 かひの池

するかのくに 七

たこのうら 富士山 ふしかは うとはま しの□の浦 こからしのもり もらしのいそ あさ

(ま)やま ともえのはし くきかさき

伊豆国 三

しほさきの森 すかたのさかひ きぬかさき きぬか池 あつまをかはし山

甲斐国 八

かひのしらね くれち山 ゆめやま ふえふきかは おひれの山 ふあかは 黒こ。山 かたみ

の関 かひの黒駒 鶴の群 よろ島 たまるの里 なみかさき しばたの山 かひかね

「遠江国(影)、遠江国(版)、フリガナナシ(北三東)  
二「十二」一ナシ(三版東)  
三なこそ関(影北三版東)  
四はなは□(北)  
五浜名の橋(三版東)

六するがの国(版)  
七「七」一ナシ(三版東)

八たこのうら(版)  
九富士の山(三東)、富士の山(版)、フリガナナシ(北)

一〇ふじかは(版)  
一一うどはま(三版東)  
一二しこの浦(影北三版東)  
一三こもえの橋(三東)

一四伊豆国(版)、フリガナナシ(北三東)

一五「三」一ナシ(影北三版東)

一六すがたのさかひ(版)  
一七あつまをかはら山(影北版、あつまをかはら山(三東)

一八「八」一ナシ(三版東)

一九かひの黒駒(版)、フリガナナシ(三)、フリガナ「コマ」のみあり(東)

二〇鶴の群(北)、鶴の邦(三)、鶴の邦(版)、鶴の邦(東)  
二一なみが崎(版東)  
二二しばた山(三版東)

「相模国」(版)、フリガナナシ(北三東)  
二「八」ーナシ(三版東)

「相模国」  
八

三「こゆるきのいに」(彪)、こゆるきのいに

箱根山 たもとのうら こゆるきのいそ 人みのうら いはせかは 鶴のさと なかしの里 あ

(北)、こゆるきの磯(版)  
四「鶴のさと」(北三版東)

はれしま ゆるきのうら はえのもり ゆめちの里 さかみかは なか井の里 もろこしのは

ら」ウ  
33ウ

五「廿四」ーナシ(三版東)

武蔵国 廿四

あくしの池 たかせ河 つぎ人のうら いはせの渡 しろかねのたち むぎしの ほりかねのゐ

浅く

六「四」ーナシ(三版東)

安房国 四

けた。のはら まゆみの森 白雲のみね なたちの浦 宮このせき

かつぎのくに 十四

七「かづきの国」(版)  
八「十四」ーナシ(三版東)

さかづきの井 かへのうら そのかみの森 おとつれやま たのはなの池」

34オ

二「九」ーナシ(三版東)

しもつけのくに 九

「十六」一ナシ(三版東)

二つくばね(版東)  
三あふせの浦(三版東)

「廿四」一ナシ(三版東)

五かどみやま(版)  
六やまぶきの木の(彰北)、  
七あふせの里(東)  
八(版)、やまぶきの里(東)

九ゆりきの森(彰北)  
一〇関のしみつ(版)、関のしみつ(東)

「十八」一ナシ(三版東)

二〇しるみの里(三版東)

かねの井 からすかは かとりのみね したきの松山 いふきの松山

常陸国 十六

黒かは つくはね しづくやま ときはやま とよはの いきたの 霞のうら あふせのう敷はら

さくらのうら なかめかは しきたへの松山 霞のさと はなれ島 あすかゝは

近江国 廿四 34ウ

あふさかのせき かゝみ山 あぎのはし おいそのもり そめかは せんせんの松はら やまぶきの

せき おとはやま 心みのさき しきしま つるか とこのやま いなこかは いぬかみ みそ

き山 ゆりきの森 もるやま うちてのはま せたのはし いしやま 関関のし水 しかのうら

からさき よこのうら ちくふ島 ひらのやま

みのくに 十八

ふはのせき くらひやま たのみの里 はりなしの関オ ありなしのもり いとぬきかはし

かみのさと さらしなの松 くらちのはし いふきのたけ

一「九」一ナシ(三版東)

しなのゝ国 九

二きはぶの浦(東)

さかさま河<sup>二</sup>きはぶの里 ちくまかは さらしな あふちのせき はゞきゝ をはすて山 まつ

かは うらの里 きそのかけはし もち月 あさまのたけ こまかたけ とかくし そのはら

三「十四」一ナシ(三版東)

かむつけのくに 十四

四<sup>本</sup>あらしのうら(彰)、あらしのうら一ナシ(三版東)

暁<sup>アサキ</sup>のこほり からすかは あらしのうら<sup>三</sup> あらしのうら<sup>三</sup>ウ<sup>35</sup> はゞその山 花のこほり<sup>三</sup> あさか

五はゞそ山(三)

ほのぬま まかきやま<sup>セ</sup> あらふれの宮 鶯の里 いをの山

六あさがほの沼(版)

七あらふねの宮(彰北三版東)

下野国<sup>シモノヘ</sup> 九

八ふたご山(三版東)

ふたご山 きぬかは 中つかさの宮 いをのぬま まゆみのもり

みちのくに

九あひみの山(彰北三版東)

白河のせき なとりかは たけくまの松 たまつくりのせき 衣のせき いはあかは<sup>三</sup> あひこの

一〇みくやま(東)

山<sup>二</sup>みくやま<sup>二</sup> まきの島<sup>三</sup> かせのさと いはてのこほり<sup>三</sup> あえるのおか<sup>三</sup> おしの井て<sup>36</sup> しほ

一一まかきの島(彰北三東、まかきの島(版)

一二宮こしま(三版東)

かまのうら わすれすの里 はつかしの里<sup>三</sup> 宮こ<sup>三</sup>のしま<sup>三</sup> なとりのみね たつくらのはま かみ



一衣がわ(版)  
二いはせがわ(版)  
三いはむがは(版)

四たかせき(北)

五かせのさと(彰北三版東)

六出羽国(三版)、フリガナナシ(東)  
七十二(彰北)「十一」ナシ(三版東)

八をゝやまた(三版東)

九「三」ナシ(三版東)

一〇「みつたのかは」ナシ(三版東)

やとのしま うきしま 一衣かは 二いはせかは まつしま みくらし山 おどりの池 三いはむかは

とかけのさき あそひのをか あふくまかは みかたの井 たのめの関 水の。しま からす

きかさき たちはなの山 あひえのをか おこのぬま たかのせき あねとり山 いにしへのか

は 四かさのさと をやまたのせき

五 いてはのくに 十一ウ  
36ウ

ねすみの関 たちかさき かみかは つりやま やそ島 たまさかの松 おかみのさき いつれ

のをか おもゐて ゆめのはな かいだの とりうみ 月の山 みこし野 袖のうら ひさか

たの森 をゝやまた そらのうら みかき野

六 わかさのくに 三

秋のうら わかゝみ たまどりのいはや かみうら こひの松はら あをのやま そまなのせき

おほゐかは し水のうら みかさの池 うしかは さかつのわたり」オ 37オ つたのつ ちさの山

七 みつたのかは かたのゝはま

一越前国(版)、フリガナナシ(北三東)  
二「十二」ーナシ(三版東)

一越前国 十二

三雪きゆる時なし(三版東)

かへる山 たいふ山 うしやま まつかけ くつのうら 色のはま しほやま いろの山 こし  
のしら山 ゆきゝゆることなし

四加賀国(版)、フリガナナシ(三東)  
五「四」ーナシ(三版東)

一かゝのくに 四

六水くきかわ(三版)  
七ふる山のはし(彰東)

水くきかは しらやま はちすのうら おもふかきし ふかやまのはし

能登国

37ウ

八となみ山(三版東)

こなみ山 にしきの島 おうかさぎ たつのうら たけのうら

九「四」ーナシ(三版東)

越中国 四

一〇いちはりの山(北)

すゝめのしま うしのかは たちの社 いつはりの山 あるまかは うたかひの山 たまはり

の河 すゝめかは しほやま たまゆふのさと 小野森

一一越後国(版)、フリガナナシ(北三東)  
一二「七」ーナシ(三版東)

二越後国 七

一三山ひこのみたち(彰北三版東)  
一四いとみ川(三東)

ぬのかは はゝその山 にくるはま きぬかは 山ひこのこたち はやかは いとえかは いと



一「六」一ナシ(三版東)

石見国イヘノクニ 六

いしはし にしきのうら きくのこほり やそのもり」オ  
39オ

二「十六」一ナシ(三版東)

幡磨国ハタマシ 十六

明石浦アカシノウラ ひさかたのうら たかさこ あまのはら ひまきのなた ゆめなしかは いをのつ ひ

三「夢」のやま(三)

めきやま かめのみなと 夢ユメやま からすさき ひろさはの池 いまてかは たるみ しは屋ヤ

四「備前国」(版)、フリガナナシ(北三東)  
五「八」一ナシ(三版東)

備前国ビゼンノクニ 八

六「いまの里」(東)

河ねの島カネノシマ かよふのうら 心みのうら いまはの里イマハノサト 鷺ササギのうら

七「備中国」(版)、フリガナナシ(三東)  
八「十二」一ナシ(三版東)  
九「みやこ山」一ナシ(彰北三版東)、補入  
記号のみあり(彰)

ひちうの国ヒチウノクニ 十二ウ  
。みやこ山

かゝみのたけ みのしま。くちなしの島 あしたかは

一〇「ひこの国」(版)  
一一「十四」一ナシ(三版東)

ひこのくに 十四

一二「みかとのもり」(彰北三版東)  
一三「あしたの川」(東)

みよしの ともの井ツツミ みかさのもり そくしまツクシマ あしたのかはアシタノカハ

一四「八」一ナシ(三版東)

あきのくに 八

「ゆめがわ(版)  
二さつきかは(北三版東)  
三ほこしま(版)

いつくしま そら島<sup>シマ</sup> ゆめかは まつのうら 雲<sup>クモ</sup>のしま さへきかは<sup>ニ</sup> はこしま 月なしのもり  
しほり山 いかりしま

四「六」一ナシ(三版東)

すわうのくに 六「六」<sup>ニ</sup>  
40オ

五かさぎの橋(版)  
六つみみの滝(版)

かさぎの橋<sup>シマ</sup> つみみのたき かさしのはし かさ松のしま

七ながとの国(版)

なかと<sup>セ</sup>のくに

あつさかは むつるの島 あしはま おもかけ山 さなみの里

八「七」一ナシ(三版東)

きのくに<sup>ハ</sup> 七

九吹上<sup>フキノカミ</sup>のはま(版、フリガナナシ)(三東)  
一〇「いとくは」一ナシ(三版東) いとくは<sup>ハ</sup>  
(北)

なくさの浦<sup>ウラ</sup> ふきあけの浜<sup>ハマ</sup> むろやま みくまの しらゝの浜<sup>ハマ</sup> 〇。 おと<sup>ハ</sup>のうら むす<sup>ハ</sup>

二藤代<sup>フジノヨ</sup>(版)、藤代<sup>フジノヨ</sup>(東)、フリガナナシ(北)  
(三)

山 わかのうら おくらやま おとなしのたき いもせやま いは井<sup>イハノイ</sup> 藤代<sup>フジノヨ</sup>

あはちの国「国」  
40ウ

めさしのはま いはやのもり 衣のさと なし江<sup>ナシノエ</sup>の里<sup>ノリ</sup> とをちの池

三「十三」一ナシ(三版東)

さぬきのくに 十三<sup>ニ</sup>

一「十四」一ナシ(三版東)

ねなしのはま せみのはま まつ山 いつのうら いとはま

いよのくに 十四

みてくらの島 さゝ浪のさと なくのさと さくら井のさと

二「七」一ナシ(三版東)

とさのくに 七

あざましかは かゝみ野 まとの池 ならしの山」オ わたのはら

河波国 十三

三阿波の国(三)、阿波国(版)、フリガナシ(北東)

四「十三」一ナシ(三版東)

かゝみ山 かつら島 とこのうら なかやま たましま

五かゝみ山(版)

ちくせんのくに 十五

六なるやま(彰北)

そめかは かまとやま あらしのはま くしのさと ちくさのもり しかしま たまみまはし

七ちくせんの国(版)

あぎのさと きりはし かすかの

八「十五」一ナシ(三版東)

九そめがわ(版)

一〇くしなみ山(三)、くしなみの里(版東)

一一ちくごの国(版)

一二ちくごの国(三版東)

河原山 藤やま おほそらのさと なら草のもり しらかのおと

二 ちくごのくに 四 41ウ

「ぶせんの国」(三版)  
「八」一ナシ(三版東)

「雲のまがき」(版)、フリガナナシ(北)

「ぶごの国」(三版)  
「十三」一ナシ(三版東)

「肥前国」(彰)、肥前国(版)、フリガナナシ  
(北三東)、声点ナシ(彰北三版東)  
「七」八「一」ナシ(三版東)

「肥後のくに」(彰)、肥後国(版)、フリガナ  
ナシ(北三東)、声点ナシ(彰北三版東)  
「九」十三「一」ナシ(三版東)

「〇」廿「一」ナシ(三版東)

「二」は「こ」しま(東)

「日向国」(版)、フリガナナシ(北三東)  
「三」十二「一」ナシ(三版東)

「ぶせんのくに」 八<sup>二</sup>

うさの宮 おとなしかは やきやま おもとのやま ひとり河 雲のやま やそのもり このは  
の森 雲の籬 すゝみのかた やなきの こまかりやま 人なしかは いとゝ河 かけたの森

「ぶごの国」 十三<sup>三</sup>

にしぎ野 ふしま<sup>チ</sup> 42オ

「肥前国」 八<sup>セ</sup>

あめやま 露のさと いかぎのもり いつぎのしま みかつぎのさと

「肥後のくに」 十三<sup>ネ</sup>

もりやま きりふの園<sup>ヅ</sup> しらかは にしぎの 月みのたけ

「薩摩のくに」 廿一<sup>〇</sup>

みなれかは は<sup>二</sup>「こ」しま かざし野 つかさ野 おもふのさと」 42ウ

「日向のくに」 十二<sup>二</sup>

- 一あまちまの里(北)
- 二壹岐のくに(彰三版、フリガナナシ(北東)
- 三つさて島(北三版東)
- 四もみちのほら(北)
- 五みその浦(三版東)
- 又或人の撰集に(版、フリガナナシ(三東)
- 六昔のほくちといふ事あり(東)
- 七八たまだすき(三版、たまたすきと云也(東)
- 八ゆふたすきと云也(三版、「ゆふたすき」といふなり)ーナシ(東)
- 九〇あひて即の別をば(版)
- 一〇谷の木を(三版東)
- 一一梅がえ(版)
- 一二紅梅(版、フリガナナシ(北三東)
- 一三さわらび(版)
- 一四山すげ(版)
- 一五あをば(三版、あをば(東)
- 一六山橋(彰版)、フリガナナシ(北三東)
- 一七八をはき(三版)
- 一八土筆(彰北、つくつく(三東、つくつく(版)
- 一九ななくさ(三版東)
- 二〇氷解風(三版、フリガナナシ(北東)
- 二一苗代水(版、フリガナナシ(北三東)
- 二二山橋二月にもよむ(三版、山橋二月にもよめ(東)
- 二三うてら子の花(三版東)
- 二四款冬(版、フリガナナシ(北三東)
- 二五かほづ(版)
- 二六草餅(版、フリガナナシ(北三東)
- 二七一つほくさ(版、フリガナナシ(三版東)
- 二八卯月(北、四月(三版東)
- 二九更衣(彰三版、更衣(北東)

きりしま あしたのとまり 一 あさちまの里 つまの島 いさふのせき

壹岐のくに

つさて島 ちくの里 もみちのはし あまかは くれかたのいそ

つしまの国

すゝのうら いまのやま 人つまはし みそ浦 まゆみの森」 43オ

又或人の撰集に 山には昔のほきちといふ事あり からきぬをは たま。すき ゆふたす

きといふなり あひて即の別をは たまのをといふ 谷の木をは むもれ木といふ

よをは しまのをといふ てをは なごとのみといふ 正月 鶯 ねの日 うつち むめ

かえ 霞 紅梅 さわらび やますけ 若菜 あをま」ウ 山橋 をはき 土筆 ななくさな

二月 氷解風 青柳 春雨 苗代水 山たちはな うてらこのはな 小山田 さくらこのは

な 深芹 三月 桜の花 なしの花 款冬 桃のはな 母こ草 うき草 こくさ いはつゝ

し かはつ 帰鷹 草餅 河みとり かつをくさ つほくさ」オ 44 元卯月 四月 更衣 葵草 卯花



一さねかつら(版)  
 二「花かうし」筍(三版東)、花かうし(三版)  
 三山ふち(北)、山藤(三版)、山藤(東)  
 四みそぎ(三版)  
 五あさいちこ(彰北)、いちこ(三版東)  
 六やまもく(三版)、やまもく(東)  
 七まこもく(三版)  
 八からすあふぎ(版)  
 九「くみ ちまき」の順が逆(三版東)  
 〇六月(版)、フリガナナシ(北)  
 一やへむぐら(版)  
 二ひかげ草(三版)、ひかげぐさ(版)  
 三なごしの萩(版)  
 四七月(三版東)、フリガナナシ(北)  
 五ひこぼし(版)  
 六かさぐきはし(版)  
 七萩花(彰)、萩の花(東)、フリガナナシ(北)  
 八「白露 小鷹狩」の順が逆(三版東)  
 九女郎花(彰)、フリガナナシ(北)  
 〇八月(彰三東、八月(版)、フリガナナシ(北)  
 一九月(版)、フリガナナシ(北)  
 二紅葉(版)、フリガナナシ(北三東)  
 三菊(三版東)  
 四まゆみの紅葉(三東、まゆみの紅葉(版)  
 五ぐみの花(三版東)、「たまぐす」以下、かりほ あけひ たまぐす 草のか(三版東)  
 六「八」の順にあり(三版東)  
 七「八」の順にあり(三版東)  
 八「あしる 落紅葉の間に」落葉(三版東)  
 〇時雨(版)、フリガナナシ(北三東)  
 一臨時のまつり(版)、臨時祭(三)、フリガナナシ(北東)

郭公 くれのをも さねかつら 花かうし 山ふし みそぎ しもつけのはな さうひん  
 うくひすの木 ひえのまつり かもまつり 五月 あやめ草 つちうり くすたま あ  
 まいちこ あふちの花 やまもくとこ夏のはな ひし まこも草 かよりひ みそき からす  
 あふぎ かつら 螢 くみ ちまき ともし」ウ 六月 空蟬 うまひゆ なたしこ ひくら  
 し 夕立 やあむくら ひかけぐさ なごしのはらへ 七月 七夕 ひこほし なつめ あ  
 まのかは かさぐきはし いなつま はなすき 露草 萩花 秋霧 白露 小鷹狩 女郎花  
 しのすき うきは つしたま みそはき はちすは すまひくさ おきのは」オ 八月  
 あき風 はつかり 鹿 もちつき 駒迎 萱 いかくり はたをり きゅうう うつ衣  
 九月 松虫 鈴虫 紅葉 くつはむし はそ かあて 菊花 檀のもみち くみの花 たま  
 むくす かりほ 草のかう あけひ 推しは」ウ 十月 更衣 みそれ はつしも 霰アラ  
 れ はつゆき あしる 落紅葉 あのこ 時雨 ゆふたすき 十一月 氷 臨時のまつり  
 とよのあかり 御神楽 かむなあらかき 十二月 しなのなし みとなしくさ すみかま

一「さくろ」ーナシ(三版東)  
 二埋火(彰)、フリガナナシ(北三版)  
 三歳暮(北三東)  
 四十七日(東)  
 五いざよひ(版)  
 六ねさち(彰)  
 七廿日ヨリ(三版東)  
 八なるとおほぬさ(東)  
 九さすかけ(三版東)  
 一〇あさこひ(彰)  
 一一かゝらしといふ(彰北三版東)  
 一二まつねにといふ(彰)、「まつねにまといふしづく」の順が逆(三版東)  
 一三しく(版)  
 一四はやたつえ(三版東)  
 一五はやたつともいふ(彰)  
 一六けたまるといふ(三版東)  
 一七「花をほ」以下、記載位置に異同あり(三、三手本解題参照)、(版東 版本解題参照)  
 一八そめしると云(東)  
 一九しむしろといふ(北三版東)  
 二〇つさといふ(北版東)、つさといふ(三)  
 二一わかいもといふ(東)  
 二二うかさせといふ(彰北三版)、うかさせとも(東)  
 二三簾にかゝる水をは(版東)、フリガナナシ(北三)  
 二四東風をほ(彰北) 東風をほ(三版)、フリガナナシ(東)  
 二五ひさこの花をほ(彰北三東)、ひさこの花をほ(版)  
 二六ゆふがほといふ(版)  
 二七山アの井アの衣アと云(三版)  
 二八あまつやしろ(三版東)

さくろ 雪ゆきのした草クサ 季子キコ 埋火ウツリヒ 46オ 嵐アザナ 歳暮サイゴ 年のうちのはる むめ 雪ゆき 16日ニ い  
 さよひ 17日 たちまち 18日 みまち 19日 ねまち 廿日ニよりは あり  
 あけ 天アメ なるとのおほぬさ のまのねといふ 地 しまのね あらかねのといふ 日ヒ さすか  
 ね いろいろのなみ いろいろのなか いろいろかけ いはなみ ゆくかけ もるひる あさこひ 風カゼ (かゝら)しとい  
 ふ はやち はやてといふ 雨 さみたれ しくれ くして まつニにまつまといふ しづくニ 46ウ 河  
 をは はやね はやたつらん はやまつといふ ねをは にはたつみ うたかた はやたへともいふ  
 国をは しきしまといふ 京をは たまのしけきといふ くもをは たまつさといふ  
 露をは にしたま けろたま けしたま けたまともいふ 花ハナをは そめしる しめころも 星ホシ  
 をは ひろしむといふ 天人テンニンをは おとめといふ 河カハの底ソコの石イシをは しまむしろといふ  
 めをは つまといふ わかいもともいふ わかせことも うかさせともいふ 簾スリにかゝる水ミヅを  
 は いとゝもといふ 47オ 東風ヒトカゼをほ おう風といふ ひヒ(さ)この花ハナをほ ゆふかほといふ  
 あをすりは おみ衣オミイ 山ヤマの衣イといふ 春ハルさめをは さかのかりといふ 天神テンジンをほ 48ア

「からよもぎといふ」(三版)、からよもぎ(東)  
 「かみをは」以下、記載位置に異同あり  
 (三) 三手本解題参照、(版東、版本解題参照)  
 三「かりほしとも」(三版東)  
 四「いそのかみといふ」(北)、いそのかみともいふ(三版東)  
 五「なにはの京をいふ」(三版東)  
 六「うしほ」(東)  
 七「にはたつみといふ」↓76頁・糸・帯の独自異文に移る(河)  
 八「はしなきとは」〜「ゆくかけといふ」↓ナシ(河)  
 九「このよをは」(三)  
 一〇・二「かなだくみ かぢをいふ也」(三版)、かなたくみ かぢをいふ也(東)、(以上三本、底本の項目ナシ)  
 三朝をは(彰北三版)  
 三三・四「おほむたからとは」百性をいふ也(三版)、おほむたからとは 百性をいふ也(東)、(以上三本、底本の項目ナシ)  
 三四「たまくらといふ」(彰北)  
 三五「ますい」(北)  
 三六「かみをは」うはたまといふ」↓ナシ(三版東)  
 \* 「ゆく月をは」以下、記載位置に異同あり  
 (三) 三手本解題参照  
 一七「しまほといふ」(北)  
 一八「京を」(東)  
 一九「宮古とも云」(河)、「宮ごと」↓75頁5行「おほみやをは」に移る(河)  
 二〇「つくはねとは」↓75頁5行「たちまちきちとも」↓ナシ(河)  
 二一「あまたあるものを」(三版)、あまたある(を)云(東)  
 二三「ごひろとも」(三版)、しごひろとも

まつやしろと云 きくをは からよもぎといふ きくやうをは ありのひふきといふ 河  
 風をは はますかな はごまかなといふ たきをは しろいとゆきといふ かみをは うはたま  
 といふ なにはたまといふ ふるきことをは かりほしといふ いそのかみとも ころしまと  
 は なのは京を云 うしほとも 47ウ 紙をは しろたえといふ しろき物をは すき物 しろ  
 かみといふ きみをは しろたといふ かけなくとも あめのあはをは うたかたといふに  
 はたつみといふ はしなきとは あやなきをいふ 海におふるをは もしほ草といふ 野  
 をは けものやといふ もきのやといふ このよは しきしまといふ ならの京をは あを  
 によしといふ 朝をは たまひこといふ 位ある物をは かけなくといふ 民をは た  
 ま(くら)といふ いちゆきといふ 48オ かをへは ますみ色といふ ますいろとも かみをは  
 うはたまといふ ゆく月をは しまほしといふ 行日をは ゆくかけといふ 京をは  
 たましき 宮ごと つくはねとは はしをいふ あまたある物とも 菓をは しまひこといふ  
 三「ごまひろとも」しごひろともいふ ゆきをは いみきらすといふ いろかきといふ いろきらすとも

(三版) □ひろとも(東)  
三いろかき(三版東)

一久なるものを(三版東)  
二きくをは かはらよもきといふ一ナシ  
(三版東)

帝王をは(三版東)

四いまのくさむ(彰)、いまのくさいふ(北書河)

五こはとも(三版東)

六・七みとりのはやしとは ぬす人をいふ也  
(三版東) (以上三本、底本の項目ナシ)

\*「木をは」以下、記載位置に異同あり(三、三手本解題参照)

八たま□□(三)  
九(二)のへといふ 174頁5行「あめのあはをは」に移る(河)

〇「京をは」くあしたつといふ一ナシ(河)

二といふ(三版東)

三鶯の(三)鶯(版)、フリガナナシ(北東書河)

四つまこひと読り(三版東)

五あま雲きりあひくるとよめり(東)

六みなとよめり(北書)、みなとよめり(三版東)

七ありあといふ(彰北書)

八別をは(版)、フリガナナシ(北三東河)

九(三)版東河、(以上四本、底本の項目ナシ)

一<sup>ヒヤツ</sup>久なれる物をは たくらといふ つらきことをは いはみかたといふ にしをは か

けなひくといふ 二<sup>ニ</sup>きくをは かはらよもきといふ 48ウ<sup>ウ</sup> 深物<sup>フカキ</sup>をは うつたへのといふ 帝皇<sup>ミカイ</sup>

をは まつらのきみといふ 人のまいるをは あのをくさ<sup>クサ</sup> いまのくといふ いそをは ち

りなみといふ 常なる物<sup>ツネ</sup>をは ときとなし<sup>トナシ</sup> とゝはとも 道<sup>ミチ</sup>をは たまほこといふ 木<sup>キ</sup>を

は やまちかきといふ たまちきとも おほみやをは もろしきといふ ここのへといふ 京<sup>キョウ</sup>を

は かましきといふ からはしくとは たけをいふ うらふれてとは もの思ひてこゝ

ろくるしけなるをいふ うらふれて物おもひをれば 二<sup>ニ</sup>とよめり 鶯<sup>ウラハヒス</sup>つまもとむ とよめり

はるされはつまをもとむる鶯のとよめり<sup>49オ</sup> とよむとは 三<sup>ミ</sup>あまくもきりあく(る)か<sup>カ</sup>とみ

はみなえとよめり<sup>ニ</sup> あまきりてゆきみん 春<sup>ハル</sup>をは かすみしくといふ 夏<sup>ナツ</sup>をは かけろふ

といふ 秋<sup>アキ</sup>をは あさまきりといふ 冬<sup>フユ</sup>をは たまくしけといふ 晝<sup>ヒラキ</sup>をは ありあけ

といふ 霞<sup>カスミ</sup>をは あしたつといふ 煙<sup>ケムリ</sup>をは くものあとといふ 別<sup>ワカレ</sup>をは 四<sup>シ</sup>むらとりとい

ふ もみちをは 五<sup>イ</sup>いかるか 六<sup>ロク</sup>はしはみいふ 人しれぬ思<sup>ヒトシレヌオモ</sup>を あしたつといふ 人<sup>ヒト</sup>にしら

一「ねたきことをは」(北)、<sup>一</sup>「ねたきことをは」こと  
 二「ふきをさ」といふ(北三版東河)  
 三「あふささるさ」といふ(北三版東河)  
 四「も也」(三版東河) (以上四本、底本の項目ナシ)  
 五「たまさかとも」(彰北書)  
 六「七いさしめとは、ちと也」  
 七「いさゝかのほ」と也(三版東河)、(以上四本、底本の項目ナシ)  
 八「いさゝかといふ」(版)  
 九「やまがつといふ」(版河)  
 一〇「篇をは」(書)、フリガナナシ(北三版東河)  
 一一「たにいつといふ」↓45頁8行「壺に藍染物をはし」(河)に移る(河)  
 一二「とくすをは」(三) (一)「は」とくすをは(版)、(郭公をは)「かけろふといふ」(ナシ)(河)  
 一三「かれ野とは、舟の名なり」(三版東)、(以上三本、底本の項目ナシ)  
 一四「まのくもかけといふ」(北)  
 一五「ひさしきをは」(北)  
 一六「すみよしと」(彰北)、すみよしといふ(三版東)、すみよしとは(書)  
 一七「八旅人のねはころなるをは」(書)  
 一八「元ねたしくさといふ」(書)  
 一九「よそにかたらふをは」(三版東)  
 二〇「かけろふといふ」(彰北書)  
 二一「三みどりのせみとは、冠の事也」(三東)、みどりのせみとは、冠の事也(版)、(以上三本、底本の項目ナシ)  
 二二「あるかなきかなる物をは」(三版東)  
 二三「あけなといふ」(彰)  
 二四「三版、ことに出てとは、ことはいで、也」(二版、ことに出てとは、ことはいで、也) (東)、(ことに出てとは、ことはいで、也) (河) 同項目より76頁12行「あけは(ひる)程をはし」に移る(河)、(以上四本、底本の項目ナシ)  
 二五「かけろふ」(むつことといふ) (河)  
 二六「元けたらなくとも」(彰北三版東書)

れぬといふをは <sup>三</sup>山かつといふ <sup>一</sup>ねたきことをは <sup>二</sup>ことよりといふ <sup>49ウ</sup>あひかたきを  
 は <sup>二</sup>やまたつといふ <sup>二</sup>心にいれぬをは <sup>二</sup>ふたをさといふ <sup>二</sup>希 <sup>ニ</sup>ことをは <sup>二</sup>わくらはといふ <sup>二</sup>たま  
 さかといふ <sup>二</sup>遣文 <sup>フナツルツカヒ</sup>をは <sup>二</sup>たまのをといふ <sup>二</sup>無 <sup>ナク</sup>ことをは <sup>二</sup>ぬれ衣 <sup>セ</sup>といふ <sup>二</sup>十月の雨をは  
 しくれといふ <sup>二</sup>山里 <sup>ヤマノ</sup>に栖 <sup>ス</sup>をは <sup>二</sup>やまかつといふ <sup>二</sup>やまふきををは <sup>二</sup>いとはずといふ  
 つしをは <sup>二</sup>草まき <sup>クサマキ</sup>といふ <sup>二</sup>鶯 <sup>ウ</sup>をは <sup>二</sup>たにいつといふ <sup>二</sup>郭公 <sup>クワクワ</sup>をは <sup>二</sup>くつぬ <sup>クツヌ</sup>ひといふ  
 (荒) <sup>アラ</sup>処 <sup>トコロ</sup>をは <sup>二</sup>よもぎ <sup>ヨモギ</sup>うといふ <sup>二</sup>雨 <sup>アメ</sup>のをつる <sup>ツル</sup>所 <sup>トコロ</sup>をは <sup>二</sup>あまのくも <sup>アマノクモ</sup>かけといふ <sup>二</sup>ひさし <sup>ヒサシ</sup>きを  
 すみよしといふ <sup>ハ</sup> <sup>50オ</sup>常 <sup>ツネ</sup>なる物 <sup>モノ</sup>をは <sup>二</sup>とこ <sup>トコ</sup>はといふ <sup>二</sup>旅人 <sup>リョウジン</sup>のねんころ <sup>ネンコロ</sup>なるをは <sup>二</sup>ね <sup>ネ</sup>さしくさ  
 といふ <sup>二</sup>よそ <sup>ヨソ</sup>に語 <sup>カタ</sup>人 <sup>ヲ</sup>をは <sup>二</sup>かけ <sup>カケ</sup>かつといふ <sup>二</sup>ふ <sup>フ</sup>(た) <sup>タ</sup>りね <sup>リ</sup>たるをは <sup>二</sup>かけ <sup>カケ</sup>そふといふ <sup>二</sup>た  
 まくら <sup>マクラ</sup>をは <sup>二</sup>かけ <sup>カケ</sup>みといふ <sup>二</sup>ち <sup>チ</sup>か <sup>カ</sup>きを <sup>キ</sup>は <sup>二</sup>あ <sup>ア</sup>し <sup>シ</sup>か <sup>カ</sup>き <sup>キ</sup>といふ <sup>二</sup>ころ <sup>コロ</sup>も <sup>モ</sup>をは <sup>二</sup>白 <sup>シラ</sup>た <sup>タ</sup>え <sup>エ</sup>といふ  
 ある <sup>アル</sup>かな <sup>ナ</sup>き <sup>キ</sup>かな <sup>ナ</sup>る <sup>ル</sup>物 <sup>モノ</sup>をは <sup>二</sup>かけ <sup>カケ</sup>ろ <sup>ロ</sup>ふ <sup>フ</sup>といふ <sup>二</sup>あ <sup>ア</sup>ま <sup>マ</sup>し <sup>シ</sup>た <sup>タ</sup>り <sup>リ</sup>をは <sup>二</sup>の <sup>ノ</sup>き <sup>キ</sup>の <sup>ノ</sup>たま <sup>マ</sup>水 <sup>ミ</sup>といふ <sup>二</sup>かけ  
 ろ <sup>ロ</sup>ふ <sup>二</sup>く <sup>ク</sup>ろ <sup>ロ</sup>き <sup>キ</sup>む <sup>ム</sup>し <sup>シ</sup>な <sup>ナ</sup>り <sup>二</sup>き <sup>キ</sup>く <sup>ク</sup>す <sup>ス</sup>とい <sup>イ</sup>ふ <sup>フ</sup>鳥 <sup>トリ</sup>をは <sup>二</sup>け <sup>ケ</sup>た <sup>タ</sup>ち <sup>チ</sup>な <sup>ナ</sup>く <sup>ク</sup>とも <sup>二</sup>あ <sup>ア</sup>さ <sup>サ</sup>ち <sup>チ</sup>とは <sup>二</sup>あ <sup>ア</sup>れ <sup>レ</sup>た <sup>タ</sup>ると  
 ころ <sup>コロ</sup>にお <sup>オ</sup>ふる <sup>ル</sup>也 <sup>ニ</sup> <sup>50ウ</sup>人 <sup>ヒト</sup>の懐 <sup>マコト</sup>にて <sup>ニ</sup>さ <sup>サ</sup>しい <sup>イ</sup>れて <sup>テ</sup>物 <sup>モノ</sup>か <sup>カ</sup>た <sup>タ</sup>り <sup>リ</sup>する <sup>ル</sup>をは <sup>二</sup>む <sup>ム</sup>つ <sup>ツ</sup>こ <sup>コ</sup>と <sup>ト</sup>い <sup>イ</sup>ふ <sup>二</sup>あ <sup>ア</sup>け <sup>ケ</sup>は

三〇あさちをは(書) ひまなきをいふ ぐらし  
 三〇云も同じ事也(三版) やらにとは ひま  
 なきをいふ ぐらしどもおなし事也(東)  
 (以上三本、底本の項目ナシ)

一「しのゝめといふ」↓77頁8行「命をは」  
 に移る(河)  
 二「よしえやしとは わらふをいふ也(三  
 版) よしえやしとは わらふ事也(東)  
 (以上三本、底本の項目ナシ)「いやしき物  
 をは」↓「しての山といふ」(河)  
 三「きやうをは」(三版東)  
 四「ありのひこといふ」(三版東)  
 五「なとはめとも(彰) なにはめとも(三版東  
 書) 本

七ほうたんをは(彰) ほうたんを(三版東)  
 八ふかみくさとも(三版東)  
 九「やそのちまたとは ゆきかひの人多き  
 也(三版東) (以上三本、底本の項目ナシ)  
 二「常のことをは」(書、フリガナナシ)(三東)  
 三「みつはさすとは 老からまるをいふ  
 (三) みつはさすとは 老からまるをいふ  
 (版) みつはさすとは 老からまるをいふ  
 (東) (以上三本、底本の項目ナシ)

二「衣でといふ」(版)  
 三「荒やとをは よもきふといふ」(ナシ)(三  
 版東)  
 四「おもりの印とは(三版東)」「おもりの注と  
 は」以下巻末までナシ(河)  
 五「七女のかひなにつけて(三版東) めのかひ  
 なたつけて(書)  
 六「それをおとこしつれば(彰) それにも  
 おとこしつれば(書)  
 七「その虫のちゆうするなり(三版東)

(な)るゝ程をは しのゝめといふ いやしき物をは しつのをといふ きゝやう あり

のひこといふ 葦をは よかすとも なこはめとも よしとも りんたうをは いもきくさと

いふ ほうたんをは ふかみくさといふ しをんをは くさまきといふ つゆ草をは こ

ねすといふ みゝなれ草をは あれたるはたけなどにおふなといふ おみなへし 女にたとへ

てよむへし 家のほかをは そともといふ 常のことをは ありそうみといふ あさほさ

すとは 山のはに月のいるをいふ 51オ 筆の跡をは はまちとりといふ 袖をは 衣てとい

ふ 荒やとをは よもきふといふ よみちをは しての山といふ 命をは たまのを

といふ おもりの注とは もろこしに人のありくにむしのちをめのかひなにつけて 行なる

へし それにことおとこしつればそのむしのちのうするなり」ウ 51ウ

解題

(1) 京都女子大学図書館吉澤文庫蔵本 (YW. 911. 201. N)

写本一冊。外題「能因歌枕」。内題「能因歌枕」。江戸前期写。吉沢文庫の印記あり。表紙白色無地、厚紙。包背装。料紙、楮紙。縦二八・七種、横一九・七種。五四丁。本文一面六〇九行書。奥書なし。底本。

(2) 彰考館蔵本 (已、二二、〇七六四五)

写本一冊。外題「能因歌枕 完」。内題「能因歌枕」。元禄九年 (一六九六) 写。表紙薄縹色、無地。袋綴。料紙、楮紙。縦二八・三種、横一九・九種。四六丁。本文一面九行書。奥書に、「右此能因歌枕ハ冷泉為相卿の以真筆令書写畢」とあり、貼紙にて「右能因歌枕壹冊元禄九年丙子之秋小野沢介之進京師新写」とある。底本系統。

(3) 北野神社蔵本 (ノ、第六号)

写本一冊。外題「能因哥枕」。内題「能因歌枕」。元禄一三年 (一七〇〇) 写。表紙薄黄色、無地。袋綴。料紙、楮紙。縦二五・二種、横一八・五種。五三丁。本文一面六〇九行書。奥書に、「右此能因哥枕者冷泉為相卿真筆令書写畢」「元禄十三庚辰卯月廿一日自了可禅翁得写」とあり、表紙に「池田光政筆」「上京式組長紫東町近藤真輔」とある。底本系統。

(4) 元禄九年版本 (国文学研究資料館蔵本)

一冊。外題「能因哥枕全」。内題「能因哥枕」。表紙、淡茶地に稲妻紋。袋綴。料紙、楮紙。縦一五・四種、横一一・〇種。六八丁。本文一面八行書。奥書に「右此能因歌枕ハ冷泉為相卿乃以真筆令書写畢」とある。刊記は、「元禄九丙子歳八月仲旬書林 植村藤右衛門、宮城四郎右衛門 板」。底本とは記載位置等の異同あり。別類をなす。

〔記載位置等の異同箇所〕

① 73頁 8行「花をは」〜74頁 2行「しらいとゆきといふ」 ↓ 45頁 3行「中少将をは」〜同頁 8行「つくはねと云」 (入れ代り)

② 74頁 2行「かみをは」〜同頁 10行「うはたまといふ」 ↓ 73頁 8行「花をは」〜74頁 2行「しらいとゆきといふ」 (入れ代り)

③ 75頁 11行「煙をは」〜76頁 5行「たにいつといふ」 ↓ 74頁 2行「かみをは」〜同頁 10行「うはたまといふ」 (入れ代り)

(5) 三手文庫蔵本 (歌ノ巻ノ以)

原本未見 (国文学研究資料館蔵紙焼写真による)。写本一冊。外題「能因歌枕、越部禪尼御塚之記」。内題「能因哥枕」。六八丁。本文一面八行書。奥書に、「奥最云右此能因歌枕者冷泉為相卿之以真筆令書写畢」とあり。版本系統。

〔記載位置等の異同箇所〕

① 45頁 3行「中少将をは」〜同頁 8行「つくはねと云」 ↓ 75頁 11行「煙をは」〜76頁 5行「たにいつといふ」 (入れ代り)

② 51頁1行「ならをば」～同頁6行「かけみひのといふ」↓54頁4行「あさなく」とは」～同頁10行「山かけにして」(入れ代り)。但し「ならをば」～51頁3行「ますみ色といふ」の部分が無く、代りに以下の異文がある。「まにく」とは 随(随一版)意とかけりそれか(が一東)まといふ心(事一河)也 但又問(あひだ一東)の心にもよめり むらさきのちりとは わらひをいふみと(ど一版)りの袖(そで一版)とは 六位をいふ也 あをき衣とも あかめとは 鯛の事也 うらしまが子(か子の一河)つるもの也 いなせとは いなともせともいへと也(河野本にはこの後に、「身にいたづらとは いたづらはしきを云也」という独自項目がある。なお同本は同項目より51頁5行「句をばく」に移る)。

③ 73頁8行「花をば」～74頁2行「しらいとゆきといふ」↓74頁2行「かみをは」～同頁9行「ますいろとも」(入れ代り)

④ 74頁10行「ゆく月をは」～75頁4行「とゝはとも」↓75頁4行「木をは」～同頁11行「あしたつといふ」(入れ代り)。

\* 以上四箇所は、各一丁ごとの異同である。

⑤ 44頁4行「梅をは」～同頁6行「ほのえといふ」↓「つしをは いなゝきと云 くだふきといふ かむしをは ほのえといふ 梅をは とりねすきのと云 桜をは にほひえといふ」とあり。

⑥ 57頁11行「けるみの浦」～同頁12行「いくたの森」↓「けるみの浦 なからの橋 まのゝ浦 まつかせ いくたの森」の順(「あきたかは 何波のうら かさ松」ナシ)。

(6) 東京大学文学部国文学研究室蔵本(中世. 11. 2. 2B)

写本一冊。外題「能因哥枕 全」。内題「能因哥枕」。江戸中期頃写。「渡辺氏祖先之遺書」の印記あり。袋綴。料紙、楮紙。縦二三・八裡、横一六・九裡。三九丁。本文一面一〇行書。奥書に、「右此能因哥枕ハ冷泉為相卿の以真筆令書写畢」「世間流普以本書写畢行文錯簡等誤語疑文可多以後可加校合而已 藤篤之」とあり。版本系統。

(7) 河野信一記念文化館蔵本

原本未見(国文学研究資料館蔵紙焼写真による)。外題「徹書記物語、四季物語、無名抄、能因歌枕拔書」。内題「能因哥枕拔書」。八丁。本文一面一六行書。奥書に、「宝曆六丙子年 陽月下瀬 大橋盛庸書」とあり。版本系統の抜書本か。

(8) 宮内庁書陵部蔵本(一、一一八、七二六)

写本一冊。外題「能因歌枕」、内題「能因歌枕」。江戸前期写(靈元院写とも)。表紙、白地に銀の菊桐文。袋綴。料紙、斐紙。九丁(墨付五丁)。本文一面七行書。奥書なし。『日本歌学大系』(第一巻)に、略本として翻刻されている。

〔付記〕この校本の校正段階において、浅田徹氏の『能因歌枕』の伝本について(和歌文学会、於立教大学、昭61・5・10)と題する口頭発表表があり、その中で氏は(1)～(3)をI類本、(6)をI類脱落本、(4)～(7)をII類本と分類する試案を示された。旧分類では、II類本が広本、I類脱落本が略本とされている。



以上の校本は、昭和六十年度の慶応義塾大学大学院文学研究科修士課程における設置科目「国文学特殊講義Ⅲ」（川村担当）の講義の一環として作成されたものである。

諸本の閲覧に際し御協力賜わった各図書館及び関係各位に対して深く感謝申し上げます。

能因歌枕研究会

中川博夫 小林一彦 伊藤 實 佐々木孝浩

田中 直 山部和喜 野津将史

なお、本誌次号に要語略索引を掲載する予定。